

令和6年度

会 誌

第59号

広島県高等学校教育研究会
英語部会

英語部会会誌 59 号

目 次

巻頭言

- 会誌第 59 号の発刊にあたって 広島県立豊田高等学校 神笠 薫子・・・3

寄稿

- 主体的、自律的に「書くこと」に取り組む英語学習者の育成を目指した実践
広島大学附属福山高等学校 福澤 健・・・4
- 英語紙芝居「原爆の子 さだ子の願い」を通じた話す領域[発表]の指導について
広島県立安芸府中高等学校 久山 慎也・・・10

事業報告

- 1 第 61 回広島県高等学校教育研究会英語部会定期総会・研究大会・・・14
- 2 第 21 回広島県高校生英語スピーチ・レシテーションコンテスト・・・32
- 3 第 61 回広島県高等学校英作文コンテスト・・・42
- 4 第 16 回広島県高校生英語ディベート大会・・・45
- 5 第 17 回中国地区高等学校英語スピーチコンテスト・・・53
- 6 英語部会の事業・自己研修に関する意識調査アンケート結果・・・56

資料

- 1 各地区における研究授業の実施について・・・64
- 2 生徒作品・・・65
- 3 令和 6 年度広島県教育研究会英語部会概要・・・70
- 4 広島県高等学校教育研究会英語部会会則・・・71

会誌第 59 号の発刊にあたって

広島県高等学校教育研究会英語部会 会長

広島県立豊田高等学校 校長 神笠 薫子

英語部会会員の皆様におかれましては、本部会の研究活動に対し、御理解と御協力を賜り、心より感謝申し上げます。

本部会は、英語教育に係り広島県教育委員会の御指導のもと、学習指導要領の法令に則り、自主的・創造的な教育活動を行い、本県の高等学校、特別支援学校及び高等専門学校教育関係者の資質の向上への寄与と学校教育の振興を図ることを目的としております。令和 6 年度は、安芸府中高校に設置した事務局を中心に 6 つの地区の理事、庶務、幹事等の役員及び各会員の皆様とともに、次の 3 本の達成目標を掲げ、教員の指導力向上及び生徒の英語力向上に資する研究活動を進めてまいりました。

ア 学びの変革の趣旨（主体的、対話的で深い学び）を踏まえた授業展開や教材開発を行っている。

イ 学びの変革（主体的、対話的で深い学び）と関わりのある内容について研究・研修を行っている。

ウ 高校生育成事業に応募する学校・生徒の数を増加させる。

上記アについては、2 学期に 5 地区の高等学校において公開研究授業を実施していただきました。また、イについては、7 月に県立広島大学の草薙邦広准教授を講師に、部会員を対象とした研修会を開催しました。

そして上記ウについては、9 月に県内の高校生を対象として、英語スピーチ・レシテーションコンテスト、10 月に英作文コンテスト、英語ディベート大会の 3 つの大会を実施しました。コロナ禍を経て、対面の形で全ての行事を実施することができました中、いずれの大会においても質的な向上が見られ、今後も更にこれらの高校生育成事業が活発化していくと確信いたしました。

本会誌には、研究活動の成果を広く還元するため、各地区で実施された公開研究授業や研究大会など、今年度の研究内容や実践例を収録しております。所属校での日々の実践に役立てていただければ幸いです。

最後になりましたが、今年度の研究活動において、県や各地区の事務局校の役員として、また、研修会や高校生育成事業の 3 つの大会の審査員や運営担当者として携わっていただいた全ての関係者の方々に感謝申し上げます。本部会としましては、今後も、広島県教育委員会の指導・助言を得て、研究内容の質的な向上を目指すとともに、会員の皆様を対象としたアンケート調査の結果等を参考にして、研究活動の更なる充実・発展に努めてまいります。引き続き、会員の皆様の御理解と御協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

1. 「英語コミュニケーション」での取り組み

本校では、高校 1 年次に「英語コミュニケーションⅠ」を、高校 2 年次に「英語コミュニケーションⅡ」を履修している。以下は私が担当している学年の基本的な単元の構成であり、4 技能を統合的に結びつけた活動になることを意識して授業を展開している。

第 1 時	文法、語彙、題材の周辺知識の導入（リスニング）
第 2 時 ～ 第 5 時	教科書本文を用いた読解、言語活動（→資料 1） ①オーラルイントロダクション（or 前時の Review） ②語句の導入・定着活動（ペアワーク） ③本文内容理解（聴解・読解） ④音読練習・サイトラ ⑤内容に関する Q&A（ペアワーク） ⑥リテリング（ペアワーク）
第 6 時	確認テスト＋「話すこと」や「書くこと」の言語活動
第 7 時 (第 8 時)	「話すこと」のパフォーマンステスト

「書くこと」につながる取り組みとしては、単元の第 2 時～第 5 時において、生徒がリテリングで話した内容を要約としてノートにまとめる¹ことを行っている（→資料 2）。1 年次当初は、授業の終わりに生徒が要約を書く時間を確保し、年度途中から復習として各自が家庭学習でまとめるように指示をした。英語が苦手な生徒もいるため、授業後にはリテリング例を Google Classroom 上で生徒が閲覧できるようにしている。定期考査には、リテリング例をアレンジ（場面を設定し、対話文にするなど）した問題を「書くこと」の「思考・判断・表現」の観点で出題しており、授業と復習で身につけた表現を応用すれば解けるような問題（→資料 3）となるようにしている。さらに、考査後にはそれらを再度アレンジして、「話すこと[やり取り]」のパフォーマンステスト²を実施し、授業の活動と定期考査に向けた復習が生きるようにもしている。

授業中の活動とその復習が定期考査やスピーキングテストに結びつくようにしたことで、生徒は意欲的に Q&A やリテリングの言語活動に取り組むようになったように感じている。今後の課題としては、扱う英文が難しくなり、文量も増えるほど、内容理解に時間がかかり、1 時間の中でリテリングまで行う時

¹ ノートは高 2 の途中まで確認を行った。考査前の授業 1 時間で、廊下で 1 人ずつ学習相談をしながらノートを確認し、教室待機の生徒は自習課題に取り組んでいる。ノートは、自己評価・振り返りと合わせて「主体的に学習に向かう態度」の観点で評価に加えている。


² スピーキングテストは実施や評価が大変だが、授業時間内で評価を行う形にして負担を減らし、なんとか英語コミュニケーション、論理・表現ともに学期に 1、2 回の実施ができています。録画したものを後から評価すると 2 倍以上の時間を取られるため、録画は記録用としてのみ行っている。

資料 1 (授業で用いるワークシート)

[illegible]

* In Scene 0 のリナはあやふやな状況で登場し / 二ノ上はあやふやな状況で登場し。

Reading Use the keywords below and read the story with your partner.






Discover / try to explain
understand / understand
imagine / imagine

Scene 2

3. At Fry used scraps of paper as bookmarks in his chair back. What problem did he have?
4. Fry's colleague gave up on an adhesive. Why?
5. Fry thought of a new type of notes. What were they like?
6. At last, what did other people in Fry's company think about the sticky notes?

Reading Use the keywords below and read the story with your partner.


a printed / printed / calligraphy / calligraphy
scraps of paper
temporarily / attached

Notes

1. What gave birth to "self-sticky notes"?
2. What did Fry mean by "cheap ideas" still? What problem did he have?
3. What did he think of? Why did the scientist who had discovered it give up on it? What was Fry's inspiration?

Explain the story in Scene 2 in about 50 words.

資料2 (生徒のまとめたノート)

*各 Scene のリタリングは各自で授業用ノートにまとめておきましょう。

Retelling Use the keywords below and retell the story with your partner.

 <p><i>disaster / by accident</i></p>	 <p><i>serendipity / Fanny Hill / three princes</i></p>	 <p><i>ability / compacted discussion</i></p>
--	--	--

Hints

1. What do many of the common things in our modern world have in common?
2. Who first used the word serendipity? Where did the word come from?
3. How did Walpole use the word serendipity?

Explain the story in Scene 1 in about 50 words.

資料 3 (考査問題の一部)

Retelling

Scene 1 Many of the common things in our modern world is something that were discovered by accident as a result of "serendipity". The word was first used by Henry Walpole in a letter to his friend. In the letter, he talk about an old Persian tale called "The Three Princes of Serendipity". He used the word serendipity to describe people's ability to make important discoveries by accident.

Scene 2 Art Fry, who sang in the choir of his church on Sundays, marked his choir book with scraps of paper to find the music quickly, but they sometimes fell out from the book. To solve the problem, he thought of an adhesive. Several years ago, another scientist in his company had given up on the adhesive because it was not strong enough to hold permanently. Fry's inspiration was that it would serve well to keep the notes temporarily in the choir book.

Scene 3 Alexander Fleming, who was a doctor and was sent to France to take care of wounded soldiers in World War I, thought that the most dangerous organisms in those days had more than just pus, it was called the white mold cells from what is called the bacteria. In 1928, his observation led him to the conclusion that the mold inhibited a substance that killed the bacteria but was harmless to human bodies.

L7: Retelling

Scene 3 (SE) In 1928, he concluded that the mold was producing something that would kill the bacteria during his experiments, and he named this substance "penicillin".

Scene 4 Louis Pasteur once said that chance favored only the prepared mind. Paul Flory said that what you must have is knowledge in depth and in breadth. We can find the ideas for great discovery not just by being "staring at our desks, but also by being staring while we have a walk, take a bath, or when we are just about to sleep.

【3】C：各場面の対話の流れとイラストに合うように、空所①～④に入る適切な発言を、15～25 語の英語で書きなさい。[]内の語はすべてそのまま用いること。カンマ(,)等の記号は1語とは数えない。【書・思：16 点】

場面 友人同士である A と B が serendipity という言葉について話している。

A: Do you know the word "serendipity"?

B: No, I don't. What does it mean?

A: ③[**ability / discoveries / first / used / a person**].

B: Horace Walpole? I've never heard of him. So, what discoveries have been made, for example?

A: Well, self-sticky notes are one of them.

B: Oh, I often use them. They are very useful!

A: Yeah. You know, a man in a church choir came up with the idea. At first, he put scraps of paper in his choir book to find the music quickly, but they sometimes fell out. Then, ④[**an adhesive / strong / thought / serve / his marker / temporarily**].

B: I see. That's how sticky notes today were invented. Very interesting.

<解答例>

③ It means people's ability to make unexpected discoveries. It was first used by a person called Horace Walpole (when Horace Walpole write a letter to a person).

④ Then, he remembered an adhesive that was not strong enough. He thought it would serve well to keep his marker temporarily attached.

9

フォーマンテストに向けた原稿作成に意欲的に取り組むようになった。

以下は、「論理・表現Ⅱ」において、グラフを効果的に用いて発表を行うことを目標とした単元である。

第1時	<ul style="list-style-type: none"> One-minute speech “Do you know anything about empty buildings, <i>akija</i>?” (ワードカウンター利用、ペアワーク) 教科書 Model で演習 (リスニング+Q&A、パラグラフ構成の理解) (→資料5) 聴衆を引きつけるプレゼンの導入の仕方を考える (Google フォームに入力)
第2時	<ul style="list-style-type: none"> 聴衆を引きつけるプレゼンの導入の工夫について学ぶ One-minute speech (グラフ描写①) ・ グラフ描写演習(→資料6)
第3時	<ul style="list-style-type: none"> One-minute speech (グラフ描写②) (→資料7) ・ グラフを用いたプレゼンの原稿作成
第4時	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンの練習 (個人 → ペアワーク → ピアフィードバック) (→資料8) Model Speech (意欲的な生徒に発表してもらい、良い点を全体で共有)
第5、6時	<ul style="list-style-type: none"> 「話すこと」のパフォーマンステスト(→資料9)

本校では各家庭で購入した端末を生徒が授業に持参しているが、そのおかげでプレゼンの準備等がスムーズに行えるようになった。発表テーマの下調べやスライド作成、提出なども、授業内でやり方を提示しさえすれば、残り時間をその作業に充てることができる。一方で、すぐに端末が使える環境のためか、生徒が書いた英作文の中には明らかに機械翻訳による不自然な訳と思われる英文に出くわすことがある。生徒の機械翻訳の使用については特に禁止はしておらず、近年は AI 技術の発達に伴ってその精度も上がってきているので、上手く活用することで自律した英語学習者になれるとも感じている。そこで、機械翻訳を授業内で実際に使う演習を行ったので、次項で紹介したい。

資料4 (論理・表現Ⅰの生徒ノート、 が復習で書いた英作文) 資料5

資料6

資料7

資料 8

2024 年度 5 年 発表日 Part 3 Unit 2 Presentation Practice

1. Check your speech script and be conscious of the following points.

- Which words should be read strongly? (Underline them.)
- Where should you take a pause? (Put a slash(/).)
- When to move on to the next slide?
- How to describe the graph? (Title, Time frame, Key features, ...etc.)

2. Practice the presentation in turns. / Check your partner's speech based on the points below.

Check Points	①Name ()	②Name ()
Introduction (導入・要旨を引く事)	A・B・C	A・B・C
Graph Description (グラフの要旨をわかりやすく)	A・B・C	A・B・C
Conclusion (結論にまとめの主張・提案があるか)	A・B・C	A・B・C
Volume (聞き取りやすい声の大きさだったか)	A・B・C	A・B・C
Speed (聞き取りやすいスピードだったか)	A・B・C	A・B・C
Enthusiasm (意気込みを持って話せたか)	A・B・C	A・B・C
Eye Contact (聞き手を見て話せたか)	A・B・C	A・B・C

	プレゼン内容・主張	感想、参考にしたい点など
①の人		
②の人		

3. もらったコメントや他者のプレゼンをふまえた自身の振り返り（できたこと・改善すべき点等）と、パフォーマンステスト（次回と次の授業）に向けての目標などを記入。

5 年 組 番 名前

資料 9

2024 年度 5 年生 Speaking Test ③ (Speech) (科目・領域：論表・話すこと(発表)) Sep. 2024

Setting: You are making a chart-based presentation in class. (グラフを用いたプレゼンを行う) →スライド・グラフは Google Classroom で提出

Theme (Choose one): ☒ Renovating vacant buildings. ☐ Promoting local businesses. ☐ Good ways to reduce food waste. ☐ Renovating school rules in our school.

* Self-reflection の項目をよめる。練習（暗唱）して臨む。テストでは、メモやノートを参照しても良い（スピーチの際、この原稿は評価者に渡して行います）。不明な点は指導・指導まで。

Evaluation:

	English (Grammar, expressions, pronunciation)	□ S(6)	□ A(5)	□ B(4)	□ C(3)
Introduction	Like a native speaker	□ S(6)	□ A(5)	□ B(4)	□ C(3)
	Very clear and attractive	□ S(6)	□ A(5)	□ B(4)	□ C(3)
Graph Description	Appropriate and effective	□ S(6)	□ A(5)	□ B(4)	□ C(3)
	Clear and impressive	□ S(6)	□ A(5)	□ B(4)	□ C(3)

Can you imagine many empty houses in the future? Now we need to understand the reality and the solution of this problem. This graph shows "Real and expected results for total house and vacant building rates". From this graph, we can see that the vacant building rate is increasing a little bit, but in 2043, the rate will be about two times higher than now. One solution is the renovation of a shelter. But this solution doesn't work for all empty buildings. I think these options are the best solution. This is named "Sustainable house". People who pay for this house per month can use it. These solutions contribute to the problem of empty houses because they do not require a big construction work. In conclusion, we need to face the problem of empty houses in preparation for 2043. And we need to understand what to do if we have an empty house near in future. Thank you for listening.

(48 words)

※語数を必ず記入（目安は 100-200 words。制限時間は 1 分 30 秒。）

Self-reflection ①チェックリスト ②できたこと、改善点などを記述し、授業の終わりに提出。日本語でよい。

① ① 読者の手と興味・関心を引く導入 ② 読者の手に伝わりやすいグラフの描き方 ③ 具体例や経験などを含めている ④ 効果的（＝通称）なジェスチャー ⑤ 論点をそろそろまとめている ⑥ 明確な主張あり ⑦ 聞き手に伝わるように、適切な... ⑧ 声量 ⑨ 速度 ⑩ 間 で、効果的に 話すことができた

② 読者の手と興味・関心を引く導入 ③ 読者の手に伝わりやすいグラフの描き方 ④ 具体例や経験などを含めている ⑤ 効果的（＝通称）なジェスチャー ⑥ 論点をそろそろまとめている ⑦ 明確な主張あり ⑧ 聞き手に伝わるように、適切な... ⑨ 声量 ⑩ 速度 ⑪ 間 で、効果的に 話すことができた

5 年 組 番 名前

3. 機械翻訳演習について

高校 2 年生の論理・表現Ⅱの授業において、「DeepL のトリセツを作ろう！」というテーマで、生徒が機械翻訳ツールを用いて、どのような誤訳が見られるかをグループで考察をする授業を行った。今回は DeepL の無償版³を利用した日本語から英語の翻訳で演習を行い、日本語の素材には、論理国語Ⅱの教科書から生徒が既習の文章を指定した。単元の概要は以下の通りである。

第 1 時	<ul style="list-style-type: none"> 導入：機械翻訳ツールについて、「DeepL」とは、機械翻訳の実演、本時の目標提示 個人作業：生徒が自身の端末で機械翻訳→Google ドキュメントに各自まとめる（→資料 10） グループ活動：5～6 人グループで翻訳結果の共有 発表：各班の代表者が、誤訳の例や感想などを報告
第 2 時	<ul style="list-style-type: none"> 前時の振り返り：他の班のレポートを読む 仮説作り：グループで仮説を立てる（→資料 11） 仮説検証：個人で機械翻訳→グループで共有（→資料 12） 発表：各班の代表者が仮説検証の結果を報告 振り返り：Google フォームに入力（→資料 13）

第 1 時の導入時には、機械翻訳や DeepL についての概要を伝えとともに、生徒が抱きそうな（抱いてほしい）疑問を示し、実際にスクリーン上で使って見せて、誤訳になっている部分を説明し、正しい英語表現の調べ方の例⁴も示した。誤訳の傾向を把握し、どうすれば正しい英語表現を得られるかを知ることとは、これからの時代の英語学習者にとって意義深いことを伝えと、生徒たちはとても納得した様子で

³ ドイツのケルンに本社をおく DeepL SE が運営するニューラル機械翻訳サービスである。今回の授業では登録不要で利用可能な無料版の翻訳ツールを使用した。

⁴ 「英辞郎」や「Weblio」などの手軽に利用できるオンライン辞書、「DMM 英会話なんて uKnow」や「Hey! NativeCamp」などのネイティブスピーカーや英語の専門家が英語表現を説明しているサイト等を紹介した。これらのサイトにも間違いが含まれている恐れがあるため、複数参照することを勧めた。

あった。

個人作業では、生徒は論理国語の教科書から訳すのが難しそうな文を探し、DeepL に入力し、気になった結果を Google ドキュメントでレポートにまとめた。高性能な機械の「あら探し」をするという作業は意外にも楽しかったようで、生徒たちは黙々と取り組んでいた。その後、見つけた誤訳や、意外と上手く訳せていた例などをグループで共有をし、代表者が発表を行った。

資料 10 (個人作業における生徒記述の抜粋)

※「」は翻訳にかけた日本語文、→は翻訳結果を表す

- ・「だから年下の男には舐めた口の聞き方をしてもいい。」 → So you can talk a lick to a younger man.
「舐めた口」が直訳になっている。本当は insult, make fun of など。
- ・「離れていても耳を打つ」 → Hits the ear even at a distance. × 「打つ」を物理的に捉えている
- ・「ストーンと腑に落ちた。」 → It became clear to me.
△英語では「明らかになる」としているが、日本語のニュアンス的には「納得する」
- ・「不遜な言いざまは僕が男性だったからあの程度で済んだはずで、女性ならばもっと横柄な態度に出たのではないか。」 (p205)
→ I was a man, so I could have gotten away with that level of irreverence. If I had been a woman, I would have been even more arrogant.
△「不遜な言いざま」をしたり、「横柄な態度に出る」の主語が自分自身になってしまっている。
- ・「ズカズカと表すのが適当な靴音」 → Shoe noise that is appropriately described as zukazuka.
ズカズカが理解できていない。英語だと足音は piter-patter だがズカズカとというような強い傲慢な感じの意味合いはない
- ・「しかしながら『考える』ためには、その前に「思う」があり、さらにその前には「感じる」がある。
→ However, in order to 'think', there is 'think' before that, and even before that 'feel'.
○主語は合っている △「考える」と「思う」を同じ think で訳してしまっている。

第2時では、5人グループで DeepL の弱点についての仮説を立て、それを協働しながら検証した。授業での発表後、生徒は Google フォームで振り返りを入力した。

資料 11 (あるクラスの各班の仮説)

「高校生のための DeepL 活用の手引き」を作ろう! その2

～ 仮説を立て、検証する ～

<B組各班の仮説>

B1班: DeepLは、主語の判別が苦手 説

B2班: DeepLは、慣用句の翻訳が苦手 説

B3班: DeepLは、比喩表現が苦手 説

B4班: DeepLは、慣用表現を漢字のまま直訳しちゃう 説

B5班: DeepLは、文の前後関係が無いとニュアンスを間違える 説

B6班: DeepLは、主語が明確でなく、含みのある文知らない 説

B7班: DeepLは、文が長いほど直訳になる 説

B8班: DeepLは、文脈を読むのが苦手 説

資料 12 (ある班の仮説検証レポート)

E1班のまとめ

仮説: DeepLは、慣用句をうまく訳せない 説

仮説を裏付けるデータ

- <仮説どおり>
- ・離れていても靴音が耳を打つ
Even at a distance, the sound of shoes hits your ears (物理的に耳を打つ)
耳を打つ→耳に響く、聞こえる
 - ・男なら誰しも思い当たる節があるだろう
Every man can think of something
 - ・そのうち目を付けられることが目をかけられることになり
Eventually, being spotted is being spotted. spot / 見る、気づく
目をかける / take under one's wing 「誰かを保護し、見守る・親身になって面倒を見る」
look out for someone 「主に誰かを支援し、保護すること」
目を付ける / keep one's eye on A など
 - ・ストーンと腑に落ちる
make one's way to the surface (e.g. of a problem)
make one's way to the surface 物理的な状況 (例: 水中から表面に向かう)
- <仮説と異なる>
- ・女性たちの顔がいくつも浮かんだ
A number of women's faces came to mind. ○うまく訳せている
心に浮かぶ: come to mind, occur to ~
 - ・こういったことを耳にした
I heard these things. ○うまく訳せている

検証結果とそこから導ける活用のためのアドバイス

DeepLは、慣用句によって訳せるものと訳せないものがあり、必ずしも正しいとは限らないので、翻訳結果で表示された単語を一度調べる必要がある。

今回は論理国語の「男の絆、女たちの沈黙」を素材に演習を行いました。国語の内容理解という観点で、「今回の演習を通して得られたもの（新たな理解や気づきなど）」があれば記述してください。

- ・ 今回の英語の授業で誤訳を探していく中で、出てきた英文の意味と文章内でその文が意味していることを照らし合わせて、比較することができました。その中で、もう一度国語での授業を思い出したりしながら、自分で文の意図や意味について考えたりしたので、国語の内容理解につながったと思います。
- ・ 改めてこの文章を読んで翻訳した英語を吟味するという活動をする中で、より日本語の言葉の深みや面白さを学ぶことができた。英語にはない日本語独特の省略や慣用句、比喻などの表現を意識して読むことでもっと楽しく読めると思った。
- ・ 論理的な文章ではあるけれど、文学的な言い回しが多く使われていることを知れた。日本語の文でも、省略されている主語は誰だろうと考えることで、文章の展開が理解しやすかった。
- ・ 国語の授業を受けているときは、その文で言いたいことを理解するとか、難解な言葉を学ぶとか、なんとなく文を俯瞰的にみた時の理解に意識が集中していたが、今回自分の班の仮説検証で、文の主語に注目していくことで、その文の主語が何かを正確に把握でき、より深い理解につながると気づいた。

本日の授業の感想を入力してください。（必須回答、50 字以上）

- ・ いままで DeepL を信用しきって使ってしまったけれど、今回改めて分析すると主語が補えていなかったり、慣用句のニュアンスが異なっていたりなど意外と間違いが多くて驚いた。今後使うときは翻訳に頼りすぎるのではなく、ちゃんと見直して自分の言葉で英語を紡げるようにしたい。また、そのためには自分には単語量と文法が少ないのでもっと勉強していかなければならないと反省したのと同時にやってやろうという気持ちになった。
- ・ 今回 DeepL の誤訳を見つけるのを目的として翻訳された文章をチェックしたから間違いに気づいたが、I と We のすり替わりや疑問文のときの主語など、自分が英語で書くときに間違いそうだから気をつけようと思った。
- ・ 比較的日本語を正確に英語に翻訳されている DeepL でも誤訳することがあると分かった。私も普段英語で文章を書くときに DeepL を参考にすることが多いので、全てを鵜呑みにするのではなくて吟味しないといけないと思った。
- ・ 今日あら探しをした。DeepL はやはり日本語の慣用表現、主語の判別が特に苦手であることがわかった。普段から使う時は気をつけているつもりだが、DeepL を使う時は主語を補ったり、慣用表現に関しては自分で訳す、またはわかりやすく言い換えて訳す、などする必要があると改めて思った。
- ・ 実際に翻訳してみて、あらためて AI による翻訳は完璧ではないことを認識することができたと同時に、意外と言い回し的な言葉もある程度は翻訳してくれることに少し驚いた。またグループで意見を交換することで仮説に対してのアプローチの変化などが出て面白かった。

資料 13 (生徒が入力した振り返り)

※誤字脱字や表現の重複については一部筆者が訂正を加えている。

生徒の振り返りの記述にあるように、自分で言葉を補ってから機械翻訳をさせること、機械翻訳を鵜呑みにせずに吟味することの重要性を感じた生徒がほとんどであった。中には、自分で英文を見直せるようにもっと勉強していきたいという意欲をかき立てられたり、仮説を立ててグループで検証する作業を楽しんだりした生徒がいたこともわかる。一部の生徒は、素材に使った論理国語の文章の理解が深まったと感じたり、英語とは違った日本語独特の言葉の深みに気づき、それを意識することで国語の読解を楽しめそうだと感じたりもしている。初めての試みであったが、「書くこと」の技能における生徒の主体的、自律的な学びの一助になったのではないかなと思う。今後は DeepL Writeⁱによる英文推敲の演習にも挑戦し、より生徒が自律して学ぶ力を育みたいと考えている。

ⁱ DeepL SE が運営する無料版の文章校正ツール。文法の誤りやスペルミスの修正を即座に提案してくれる。

英語紙芝居「原爆の子 さだ子の願い」を通じた 話す領域[発表]の指導について

広島県立安芸府中高等学校

指導教諭 久山 慎也

1 はじめに

広島県立安芸府中高等学校は令和5年9月に開催された第20回広島県高校生英語スピーチ・レシテーションコンテストにおいて、スピーチ部門で最優秀賞及び優良賞、レシテーション部門で優秀賞及び努力賞、学校としては最優秀学校賞を受賞した。入賞した生徒たちは全員が国際科に所属しており、ここでは中心的な活動として、英語紙芝居「原爆の子 さだ子の願い」の上演に取り組んでいる。本紀要（第59号）では広島県高等学校教育研究会英語部会が主催するコンテストで最優秀学校賞を受賞した学校が、それぞれの所属での取組について実践報告を行うこととなっているが、本校は話す領域「発表」の指導に関連して、この英語紙芝居の取組について紹介する。

2 これまでの活動の経緯

2.1 英語紙芝居活動の始まり

安芸府中高校では、被爆後に発症した白血病により12歳の若さで亡くなった佐々木禎子さんを題材とした『原爆の子 さだ子の願い』の英語紙芝居に平成27年より取り組んできた。この活動は府中町在住の紙芝居居活動家である中村由利江さんが、平成12年より8月6日の原爆の日に関西記念公園で行ってきた上演活動に、地元の府中町立府中中学校及び府中町立緑ヶ丘中学校の有志の生徒が合流して続けられてきたものである。海外からの訪問客にも紙芝居を披露する中で、英語による上演の必要性を感じ、中村さんは府中町国際交流協会の会長である小柴浩美さんに台本の翻訳を依頼した。それ以来、完成した英語版の台本をもとに、日本語に加えて英語による上演も行われていたが、さらに多くの人々（特に若い世代）にこの活動に関わって欲しいとの思いから、中村さんは平成27年に安芸府中高校の国際科に参加を依頼した。中村さんからの依頼を受け、安芸府中高校では地域連携の一環として、毎年8月6日の上演会に参加する生徒を募り、地元の中学生とともに活動を行っている。令和2年度、3年度はコロナ禍により関西記念公園での活動が中止され、中学校の校舎を借りての上演となったが、翌年には現地での上演が再開し、その模様は様々なメディアでも報道された。以下の写真はその時の模様と、美術部の生徒が紙芝居の様子をモチーフとして描いた作品（作品名「祈り」）である。この作品は第50回広島県高等学校デザインコンクール平和部門で特選を獲得するとともに、令和5年5月に開催された広島G7サミットに向けた取組の一環として広島市内を走行するラッピングバスのデザインにも採用された。さらに令和5年2月26日に広島国際会議場フェニックスホールで開催された「G7 広島サミットユースフォーラム（広島サミット県民会議主催）」では、会場に集まった1000人近くの中学・高校生、被爆者の体験に耳を傾けてきた女優の綾瀬はるかさん、被爆者の田中稔子さんを前に、本校の代表生徒3名が紙芝居の取組を紹介した。綾瀬さんや田中さんからは「被爆体験の継承に向けて頑張ってもらいたい」との激励のメッセージをいただいた。



当初は中村さんが所蔵していた紙芝居をお借りしながらの上演であったが、メディアに取り上げる中で紙芝居の脚本を書かれた宮崎さんとの繋がりもでき、宮崎さんのご尽力により絶版となっていた『原爆の子 さだ子の願い』の復刻版が南雲堂より出版された。出版に際しては、紙芝居の収納ケースのデザインを本校の美術部生徒が担当した。

こうした取組により、多くの人々に本校の英語紙芝居が認知され、G7 サミット終了後も府中町が地域住民を対象に開催する各種行事や、地元の小中学校からの招待により本校が紙芝居を披露する機会に恵まれている。また、令和6年8月には広島県立総合体育館で全国生活協同組合広島支部の主催で開催された「ピースアクション in ひろしま」に本校代表生徒4名が招待を受け、紙芝居活動についての報告を行った。なお、その時の模様はオンラインで全国配信もされた。

2.2 授業における英語紙芝居の取組

令和2年度、3年度はコロナ禍により海外との往来が大きく制限されたが、その一方で、GIGA スクール構想の下で1人1台パソコンが導入され、通信環境も大幅に整備された。このことでオンラインでの国際交流活動が授業内でも可能となり、安芸府中高校ではインドネシア・フィリピン・アメリカ・ニュージーランド・カナダの中学生・高校生・大学生との交流を積極的に進めた。こうした環境のもと、令和3年度には国際科1年生の専門教科であるアクティブスピーキングにおいて、インドネシアやフィリピンの生徒等を招待してオンラインでの紙芝居を上演した。参加者は本校国際科1年生（25名）、インドネシア・ラモンガンの公立中学校48校（150名）フィリピン Immaculate Conception School of Baliuag 高校生（25名）、佐々木雅弘氏（さだ子さんの兄）、ラモンガン副摂政 Abdul Rouf 氏、ラモンガン教育委員会教育長 Munif Syarif 氏、義務教育課長 Chusnu Yuli Setyo 氏である。この取組の様子は地元テレビ局の取材を受け、NNN ドキュメント'22『禎子さんの折り鶴 千羽になったら願いが叶うんよ』として全国放送された。放送後は視聴者から本校に励ましの便りが届き、生徒も充実感を感じていた。

また8月に国際科1年生を対象に開催したサマーセミナーでは、生徒がグループに分かれて平和記念公園を訪れ、海外からの観光客に声をかけながら英語紙芝居を上演した。紙芝居の上演後には聴衆から質問を受けたり感想を聞かせてもらったりすることで、平和について英語で話し合う良い機会となった。

また10月25日の禎子さんの命日には、“World Peace Day from Hiroshima”として、交流のある海外の高校生および、Maya Kassandra Soetoro-Ng さん（オバマ元アメリカ合衆国大統領の妹）を招待してオンラインでの紙芝居上演会を行った。



上演終了後、Maya さんから直接生徒に対して励ましのメッセージをいただいたことで生徒のモチベーションも上がり、非常に良い機会となった。

ここまでの活動は、広島県ユネスコ連絡協議会からも評価され、11月には同協議会より「第八回広島県ユネスコ ESD×SDGs 大賞 広島市立大学国際学部長賞」を授与された。この学部長賞は令和3年度より新たに設けられた賞で、本校はその初代受賞校に選ばれた。令和4年度から6年度は“World Peace Day from Hiroshima”は行わなかったものの、インドネシア・フィリピンの高校生へのオンラインによる上演活動及びサマーセミナーでの対面による上演活動は継続し、海外の高校から本校への訪問依頼を受けた際には紙芝居を披露している。今では『原爆の子 さだ子の願い』の上演はアクティブスピーキングにおける核となる活動の1つ

である。以上、本校が英語紙芝居に取り組むようになった経緯と、その後の展開について述べてきた。次に、上演に向けた指導内容について述べる。

毎年6月には、英語紙芝居のキックオフイベントとして、中村さんと小柴さんをゲストスピーカーとして招いて、紙芝居が始まった経緯や活動が続けていく意義について講演をしてもらう。このオリエンテーションでは実際に中村さんに紙芝居を上演してもらうが、生徒たちは中村さんの声量やその表現力の豊かさを目の当たりにして圧倒される。次にサマーセミナーおよびオンライン交流会での上演に向け、グループ分け及び配役を行い、5～6時間程度を使って各グループでの読み合わせを行う。読み合わせ中はアクティブスピーキングを担当する日本人教師1名及び外国人講師2名が各グループを回りながら個別にフィードバックを行い、ある程度の形になった段階で再度、中村さんと小柴さんを招いてそれぞれのグループにフィードバックをしていただく。生徒はグループで相談したり教師に質問したりする中で、自分が担当する登場人物の気持ちを想像し、その解釈をどのように音声として表現していくかについて考えていく。また、発表の場が具体的に設定されていることから、本番が近づくにつれ、より緊張感をもって音読練習に取り組むようになる。

教師の役割は、緻密に指導内容を構築して一斉指導で全体を引っ張っていく「指導者」というよりも、設定された目標（英語紙芝居の上演）に向けて生徒が自らの課題を分析して周囲のフィードバックを活用しながら表現力を高めていく過程を見守りつつ、必要に応じて助言を行っていく「伴走者」としての役割が強い。以下、指導で使用している台本を提示する。

〈登場人物〉 サダコ、サダコの母、ドクター、ナース
 マサヒロ、エイジ、カオリ、チズコ、ケンジ¹
 (友人、こけしの会) (病院)

四年生はセブンゴウゴウ。 The Earnest Desire of Sadako

迫力的に There was a burst of brilliant light and a deafening boom. //

せめてくさくさ On August 6th, 1945, the American Air Force dropped an atomic bomb. //

幸災をい 必死な調子で "Sadako, hold me tight. // Masahiro, don't get lost," shouted Sadako's mother. //

Sadako was two years old at that time. // Her mother took the children to the nearby river away from the fires of the bomb. //

調子を変えて 静かに、はきりと The explosion was terrible. // With the immense force of the wind / and the intense heat from the bomb blast, 200,000 precious lives / were taken in an instant. //

Some bodies melted and disappeared. // Only shadows were left. // Some died looking just like black charcoal. //

The flames swallowed people and houses under the poisonous mushroom cloud. //

Sadako's mother held her two children tightly, thankful for their survival. //

(ゆっくり抜きながら) World War II ended and Japan lost. //

burst (名) 爆発 (動)	explosion (名) 爆発	melt (動) 融ける、溶ける
brilliant (形) 輝く、光り輝く	terrible / terrible (形容詞) 恐ろしい、ひどい	disappear (動) 消える、消えていく
deafening (形) 耳を痛めるような	immense (形) 巨大な、広大な	charcoal / tsā-koal / (名) 炭
boom / buim / (名) (銃砲、雷など) 轟く、轟音	force (名) 力、強さ、勢い	flame / fleim / (名) 炎、火
the American Air Force 米空軍	intense (形) 強烈な、激しい	houses / hauziz / 家々
an atomic bomb 原子爆弾	the bomb blast 爆風	poisonous / poiznas / 有毒な
nearby (形) 近隣の	in an instant - 瞬間	cloud / blaud / (名) 雲

音読を中心とした授業展開について提案した土屋(2004)では、音読指導を行う際の留意点として「ただモデルのまねをさせるだけではなく、生徒に自分の頭で考えさせることが重要である。どこで区切り、どこに強勢をおき、どんな抑揚をつけて読むかを考えさせるのである」と述べているが(土屋 2004:7)、生徒は登場人物の気持ちを慮り、それをどう音声で表現するかを思案する中で、文字を声に出して読む音読から、伝えたいメッセージを音にのせて表現する朗読へと意識を高めていく。また、マーサー・ドルニエイ(2022)は学習者が積極的に活動に関わっている状態(エンゲージメント)をもたらすためには、自己調整学習が必要であり、「学習者が自分自身の学習をコントロールし、方向づけを行い、調整できるという感覚」を持たせることが重要である(マーサー・ドルニエイ 2022:58)と述べており、紙芝居の取組はまさにこの条件を満たし

ていると言える。

3 本活動による学習の成果

はじめに、英語紙芝居活動で中心的役割を果たしてきた生徒が書いた振り返りを掲載する。本生徒が1年生の時にアクティブスピーキングで紙芝居の取組が開始され、彼女は3年間佐々木禎子さん役を演じてきた。2年生の夏休みは、トビタテ！留学 JAPAN の奨学生として採用され、1か月間イギリスに渡って紙芝居を上演した。言わば本校の紙芝居の取組とともに成長してきた生徒である。

紙芝居を始めたころは、不安でいっぱいでした。英語が得意ではない私は、台本を見てすぐに戸惑い、発音や感情を込めて読むことができないことに悩みました、発音指導を小柴さんに、抑揚のつけ方を中村さんに教わり、何度も練習を重ねました。それでも上手くいかず、特に感情を込めることが難しく感じました。そこで母と一緒に練習し、「もし自分が禎子さんだったら？」という視点で読み、感情の込め方を探しました。子供の頃から戦争の話を耳にする機会が多くありましたが、どこか他人事のように感じていました。紙芝居を通じて戦争の悲惨さや平和の大切さを改めて実感し、禎子さんの想いをより多くの人に伝えたいという思いが芽生え始めました。

紙芝居活動を通じて、英語学習に対するアプローチが大きく変わりました。以前は英語学習に対して「地道で大変、面白くない」という固定概念がありましたが、戦争関連の英単語に触れることで、単語を覚えるだけでなく、セリフを通じて意味を深く理解し、シーンを想像しながら学ぶことができました。その結果、単語が自然と頭に入りようになり、暗記が楽になりました。以前のように単語の覚え方がわからず苦手意識を持っていた自分が、この方法を取り入れることで英語学習をもっと身近で楽しいものを感じられるようになりました。さらに、スピーキングに対する不安も克服できました。紙芝居活動を通じて、失敗を恐れず繰り返し練習することの大切さに気づきました。発音やイントネーションも上達し、セリフを見なくても自信を持って言うようになりました。「自分にはできない」と限界を作るのではなく、「できる！」という気持ちを持ち続けることの重要性を実感しました。英語に対する不安が一気に解消された出来事として、トビタテ留学でイギリスに行ったことが関係していると思います。私はアメリカ英語の発音だけで練習しており、イギリス英語には全く自信がありませんでしたが、ホストファザーに発音を一から直してもらい、何度も練習を重ねる中で、自信を持てるようになりました。イギリスのダートフォードで図書館や学校、海軍学校など、さまざまな場所で紙芝居を披露し、合計 26 回の公演を行いました。折り鶴と一緒に折るワークショップも開催し、参加者に折り鶴の本当の意味を伝えることができたと感じています。公演後、涙を流している人々を見て、私の思いが伝わったことを実感し、心から嬉しく感じました。嬉しいことに帰国後、公演を行った学校で折り鶴を折り、校内に飾っている様子の写真を送ってくれました。私はこの経験を通じて、想いは言語の壁を越えて人々の心に届けることができ、さらに自信ができました。そして「さだこの願い」の紙芝居が持つ力に改めて感動しました。15 分という短い時間で人々の心を動かせたのは、紙芝居の力があつたからこそだと思います。私の活動が、これからの世界の在り方について考えるきっかけを与えることができたのではないかと感じています。

紙芝居継承者としてこれからも平和に関する知識を身に付け、これからの世界のあり方について考えていきたいです。原爆投下から 80 年経った今私に出来ること、それは被爆者の思いを受け継ぐことです。戦争に対する憎しみや平和に対する思いを受け継いでいくことは私に課せられた使命です。戦争の事実よりも被爆者の“思い”を言語化し、伝えていくことが重要だと思います。その使命を果たすべく私が広島県の若い世代の代表となり世界に声を届けていきたいです。

明確なゴールを見据えて紙芝居を何度も何度も練習し、本番を終えて聴衆から様々な反応を得る中で、彼女の英語学習に対する姿勢も変わっていった様子が見て取れる。どの授業でもいう訳にはいかないが、生徒にこうしたオーセンティックな活躍の場をいかに提供できるかは、指導者として心に留めておきたい。この紙芝居活動を通じて養われた豊かな表現力が、スピーチ・コンテストでも発揮されたのではないかと考えている。

【引用文献】

Mercer, S. & Dornyei, Z. (2020) *Engaging Language Learning in Contemporary Classrooms*. Cambridge.

『外国語学習者エンゲージメント：主体的学びを引き出す英語授業』鈴木章能・和田玲訳、アルク、2022 年
土屋澄男 (2004) 『英語コミュニケーションの基礎を作る音読指導』研究社

令和6年7月1日

各 高 等 学 校 長 様
各 特 別 支 援 学 校 長 様
英 語 部 会 員 様

広島県高等学校教育研究会英語部会
部 会 長 神 笠 薫 子
(広島県立豊田高等学校長)

第 61 回広島県高等学校教育研究会英語部会定期総会・研究大会について（御案内）

標記の会を次の要領により開催いたします。校務など調整の上、御出席下さいますようお願い申し上げます。参加につきましては、以下のアドレスまでお申し込みください。申込締切は7月19日（金）といたします。

1 主 催 広島県高等学校教育研究会英語部会

2 期 日 令和6年7月31日（水）

3 会 場 サテライトキャンパスひろしま
〒 730-0051 広島県広島市中区大手町一丁目 5 番 3 号
TEL 082-258-3131 FAX 082-258-3010

4 日 程

13:00 - 13:30	受 付
13:30 - 13:50	定期総会
13:50 - 15:20	ワークショップ 「どうする？主体的に学習に取り組む態度」 講師：草薙 邦広 准教授（県立広島大学地域創生学部地域創生学科） 内容： 現行学習指導要領下の観点別評価の話題になると、特に「主体的に学習に取り組む態度」について、その評価の根底にある考え方や、日々の教育実践に関して難しさを感じるという先生方の声をよく聞きます。そこで本ワークショップでは、（a）知技・思判表との関係、（b）継続性と自己調整といった概念の整理、（c）英語科の科目特性による難しさ、（d）学習履歴の組織的整理とルーブリックの開発・共有、（e）ICT機器の利用による教師負担の軽減といった点について触れながら、会場と情報共有できればと思います。
15:20 - 15:30	休憩
15:30 - 16:10	実践報告（安芸府中高校）
16:10 - 16:20	閉会行事

5 申込先アドレス k975592@g.hiroshima-c.ed.jp

下記の問い合わせ先アドレスと異なっておりますのでご注意ください。件名には「定期総会申込（氏名）」を、メール本文には所属先及び職氏名をご記入ください。

6 問合せ先 広島県立安芸府中高等学校英語部会事務局（担当 久山 慎也）

〒 735-0004 広島県安芸郡府中町山田 5 丁目 1-1
アドレス s-hisayamak975592@hiroshima-c.ed.jp
TEL 082-282-5311 FAX 082-282-5306

第61回
広島県高等学校教育研究会英語部会

定 期 総 会
研 究 大 会
要 項

期 日 令和6年7月31日（水）

会 場 サテライトキャンパスひろしま
〒730-0051 広島県広島市中区大手町1丁目5番3号

主 催
広島県高等学校教育研究会英語部会

第61回広島県高等学校教育研究会英語部会 定期総会・研究大会要項

1 開催関係団体

主催 広島県高等学校教育研究会英語部会

2 期日 令和6年7月31日（水）

3 会場 サテライトキャンパスひろしま 〒730-0051 広島県広島市中区大手町1丁目5番3号

4 日程

13:00 - 13:30 受付

13:30 - 13:50 定期総会

13:50 - 15:20 ワークショップ

演題「どうする？主体的に学習に取り組む態度」

講師 草薙 邦広 准教授

県立広島大学地域創生学部地域創生学科

15:20 - 15:30 休憩

15:30 - 16:10 実践報告

題目「観点別評価の導入と運用における事例報告」

報告者 久山 慎也 指導教諭

広島県立安芸府中高等学校

16:10 - 16:20 閉会行事（アンケート Form）

第61回広島県高等学校教育研究会英語部会 定期総会

1 開会行事

- (1) 開会のことば
- (2) 会長挨拶 広島県立豊田高等学校 校長 神笠 薫子
- (3) 役員紹介
- (4) 日程説明

2 定期総会

議長選出

議事

- 報告1 令和5年度事業報告
- 報告2 令和5年度会計決算並びに監査報告
- 第1号議案 令和6年度本部役員並びに事務局に係る件
- 第2号議案 令和6年度事業計画に係る件
- 第3号議案 平成6年度予算に係る件
- その他

3 閉会行事

閉会のことば

報告 1 令和 5 年度事業報告（別紙資料 1 参照）

- 1 第 6 0 回定期総会
- 2 第 2 0 回広島県高校生英語スピーチ・レシテーションコンテストの実施
第 1 6 回中国地区高等学校英語スピーチコンテスト兼第 1 6 回 全国高等学校英語スピーチコンテスト中国ブロック予選
- 3 第 6 0 回広島県高等学校英作文コンテストの実施
- 4 第 1 5 回広島県高校生英語ディベート大会の実施
- 5 公開研究授業の実施
- 6 英語部会の事業・自己研修に関する意識調査アンケートの実施
- 7 会誌 5 8 号のデジタル発行

報告2 令和5年度会計決算並びに監査報告

令和5年度広島県高等学校教育研究会収支決算書

部会名 英語部会

収入の部

(単位:円)

科目	予算額	決算額	増減	内訳
前年度繰越金	133,728	133,728	0	
会費	100,000	96,000	△ 4,000	500円×192人
県補助金	0	0	0	
寄付金・助成金	0	0	0	
参加費	35,000	20,000	△ 15,000	5,000円×4校
雑収入		0		
合計	268,728	249,728	△ 19,000	

支出の部

(単位:円)

科目	予算額	決算額	増減	内訳
経費	268,728	155,268	113,460	
内訳				
理事会費	10,000	6,280	3,720	定期総会会場使用料
全英連会費	10,110	10,000	110	会費
英作文コンテスト	19,000	21,559	△ 2,559	謝金図書費¥3,000×2、¥2,000×2、¥1,000×4、¥500×11 送料
英語スピーチ・レクレーションコンテスト	58,000	52,255	5,745	謝金¥5,600×7=¥39,200 旅費¥820(大学教授) 審査員弁当¥5,400 湯茶¥1,800 文具¥2,386 郵送料¥2,640
英語ディベート大会	40,000	64,774	△ 24,774	謝金¥4,500×6=¥27,000 旅費¥2,020 講師弁当 ¥5,305 文具¥3,449
消耗品費	25,000	400	24,600	通信費
次年度繰越額		94,460		

諸帳簿並びに関係証拠書類を監査の結果、適正に処理されていることを認めます。

令和 6 年 3 月 28 日

会計監査

広島県立尾道東高等学校

坂本真寛 印

第1号議案

令和6年度本部役員並びに事務局に係る件

役職名	氏名	公職名
会長	神笠 薫子	豊田高等学校校長
副会長	植田 圭	尾道東高等学校校長
副会長	宮本 昌明	松永高等学校校長
副会長	矢野 由美子	熊野高等学校校長
監事	岡寄 友一	音戸高等学校教頭
監事	龍王 理香	庄原格致高等学校教頭
監事	竹内 由美子	宮島工業高等学校（定）教頭
理事	有末 徹朗	広高等学校教諭
理事	越智 示帆	竹原高等学校教諭
理事	福好 功伸	油木高等学校教諭
理事	慶樂 友樹	日彰館高等学校教諭
理事	佐々木 裕誠	河内高等学校教諭
理事	野村 卓矢	千代田高等学校教諭
庶務	久山 慎也	安芸府中高等学校教諭
庶務	魚崎 美沙	安芸府中高等学校教諭
庶務	時川 直子	安芸府中高等学校教諭
庶務	日高 健司	安芸府中高等学校教諭
庶務	松島 浩司	安芸府中高等学校教諭
庶務	早川 顕	安芸府中高等学校教諭
庶務	頼近 真理	安芸府中高等学校教諭
庶務	松本 叔子	安芸府中高等学校教諭
庶務	廣本 樹哉	安芸府中高等学校教諭
会計	折田 実保	安芸府中高等学校教諭

【事務局】

広島県立安芸府中高等学校

TEL(082)282-5311 FAX(082)282-5306

担当：久山 慎也・折田 実保・松島 浩司

第2号議案 令和6年度事業計画に係る件

- 1 第61回定期総会並びに研究大会の開催
- 2 第21回広島県高校生英語スピーチ・レシテーションコンテスト
- 3 第61回広島県高等学校英作文コンテスト
- 4 第16回広島県高校生英語ディベート大会
- 5 公開研究授業の実施
- 6 英語部会の事業・自己研修に関する意識調査アンケートの実施
- 7 会誌59号のデジタル発行

第3号議案

令和6年度予算に係る件

令和6年度広島県高等学校教育研究会収支予算書（案）

部会名 英語部会

収入の部

(単位：円)

科 目	予算額	積 算 内 訳
会 費	190,000	1,000円×190人
県 補 助 金	0	
寄付金・助成金	0	
高校生育成事業参加費	25,000	英語ディベート大会5,000円×5校
前年度繰越金	94,460	
合 計	309,460	

支出の部

科 目	予算額	積 算 内 訳
経 費	201,152	
内 訳	理 事 会 費	28,000 定期総会会場使用料8,460円 謝金¥5,600*3=16,800円 雑費等
	全 英 連 会 費	10,152 会費10,000円 振込手数料152円
	英作文コンテスト	20,000 副賞図書券3,000*2+2,000*2+1,000*4+500*12=20,000円
	県スピーチ・レシテーションコンテスト	85,000 会場使用料¥31,000 謝金¥5,600*7=¥39,200 旅費¥820 審査員弁当、湯茶、文房具、郵送料、雑費等
	英語ディベート大会	38,000 謝金¥4,500*6=¥27,000, 旅費¥2,020 審査員弁当・湯茶・雑費等
	消耗品費	20,000 文房具代、封筒代、ラベルシール代、通信代等含む
予 備 費	108,308	
合 計	309,460	

その他

(1) 英語部会会費の納入期限は8月16日(金)まで

(2) 全英連より案内

- ・全英連埼玉大会 (令和6年11月15日(金)、16日(土))
- ・全英連英作文コンテスト
- ・全英連スピーチコンテスト

(全英連ホームページ <http://www.zen-ei-ren.com/>)

(3) アンケート Form

<https://forms.gle/5CqhsDo69VSxH2zJ6>



ワークショップ
「どうする？主体的に学習に取り組む態度」



県立広島大学地域創生学部 准教授 草薙邦広(Kunihiro, KUSANAGI, Ph.D)

Tel: 090-6096-9216

Email:kusanagi.kuni@gmail.com

第 61 回広島県高等学校教育研究会英語部会定期総会・研究大会

1. 現行指導要領における観点別学習状況の評価

- 議論されてきた背景
 - 従来の評価体制では学期末・学年末における総括的評価(summative assessment)に終始してしま
い、形成的評価(formative assessment)および PDCA サイクルに基づく授業改善に必ずしも繋がっ
ていない
 - 教師間の評価方針にばらつきがあり、組織的な説明責任を果たせない、
 - 指導要録が活用されていない
 - 現状の労務状況において評価に係るコストが高い
- 要点
 - ポイント
 - ◇ 指導改善(PDCA サイクル)
 - ◇ 形成的評価
 - ◇ コスト意識に基づく抜本的改善

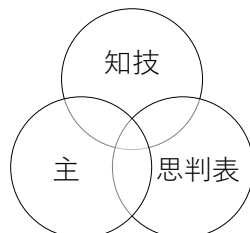
資質・能力の 3つの柱	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力, 人間性等
観点(新観点)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
旧観点	知識・技能	思考・判断・表現	関心・意欲・態度
代表的な評価 方法	ペーパー(オンライン)テ スト	パフォーマンス評価および学習 過程の評価	学習履歴(学習記録・ポート フォリオ)・観察

- しかし、特に「主体的に学習に取り組む態度」については、教育現場における混乱も多い

- 文科省資料等によると、性格や行動面の評価ではなく、個人内評価として「粘り強い取り組みを行おうとする側面」(粘り気・継続性)と「自らの学習を調整しようとする側面」(自己調整)を評価することが強調されている
- ☆ さらに感性や思いやりなど「評定にはなじまない」とされる部分を認め、除外する
- しかし教科固有の目標・学習内容との関連が見えにくい
- 実質的に学習履歴・ポートフォリオとしての「振り返りシート」といった実践によって形骸化しやすい

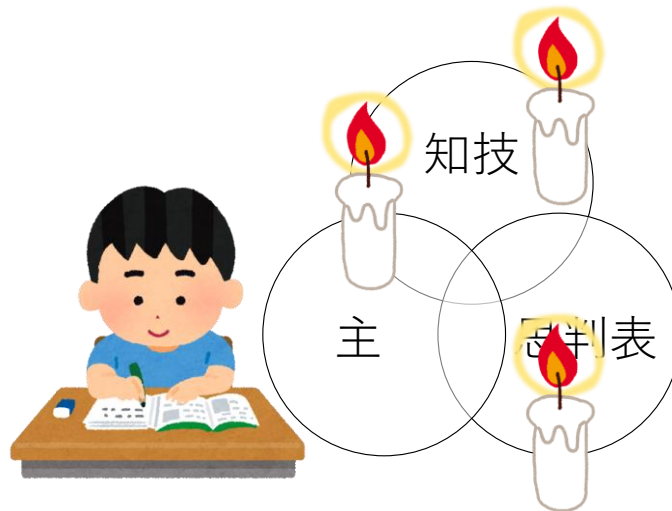
2. 混乱の整理を試みる

- ①最初に観点や領域の「縄張り争い」はやめる
 - ・重要な点は、ある学習者の側面を評価する／しないの区別であり、負担なく、指導改善に活かされ、
形成的評価に資するならば、行政上の位置づけの正当性の検討をことさら優先することはない
 - ・独自の部分をイメージしやすいが、知技との重複部分、思判表との重複部分を積極的に認めていく
- ☆ これらと大きく評価結果に差がつくことは考えにくいとされている



	知技	思判表	主
読むこと			
書くこと			
聞くこと			
話すこと[やりとり]			
話すこと[発表]			

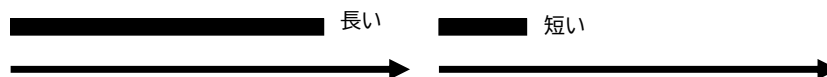
- 教育評価とは真っ暗な部屋に何本かのローソクを立てるようなもの



- ②粘り気と自己調整のバランスによって考える

- 粘り気は，主に学習時間継続長，学習行動の反復回数
- 自己調整は，行動の種類，頻度などの変容率

学習時間継続長



学習行動の反復回数・頻度



学習行動の変容



- ③「内容のまとめり」は大きく捉える

- 単元または単月末にある主活動といった単位で評価する
- 長期的な観察によってしか，根本的には評価できない
- ノートテイキング，提出物の提出状況，挙手回数，発言回数などが批判されているのは，短期的に行動が表出しているだけという懸念
- 十分な期間において継続的に上記のような行動データを使用するのは差し支えない

- ④「～ようとしている」文言は行動の予期
 - たとえば、コミュニケーション方略の使用は、技能と見ることも、思判表の現れとも見ることができ。しかし、重要なのは、実際にやりとりの場面において、コミュニケーション方略が見られるならば、コミュニケーションが将来的に成立することを予期させるということ
 - ペーパーテストにおいて、誤答であっても、当て推量で空欄を減らす行為は、将来的に十分な知識があれば正答することを予期させる
 - いわゆる宿題の取り組みや提出物の記録は、それ自体が知識・技能といえなくとも、将来的にテストと高い成績を取ることを予期させる
 - 私自身は、代替行動・学習関連行動と呼んでおり、重要な要素だと考えている
- ⑤教師の指導自体との関わりが大きいという認識
 - 生徒がもつ特性の評価や総括というよりも、指導改善、形成的評価のための補助的な情報と考えたほうがよく、教師が提供している学習環境やスタディ・スキルの指導実態を表しているとも考えられる

私なりに整理

- 「主体的に学習に取り組む態度」は、知識・技能、思考・判断・表現との関わりを持ち、将来的な学習の成功を予期させる情報、特に長期的に観察される学習行動やその代替行動の傾向であって、その情報を元に、教師にとっては指導、生徒にとってはさらなる学習に活用される

3. 昨今の学会の動き

- 一言で言って混乱している
- 従来の外国語教育研究で主流であった、各種の動機づけ、コミュニケーションへの態度(Willingness to Communicate; WTC)、学習者の自律性(learner autonomy)、コミュニケーション方略などに関連づけようとする動きがある
- 本来、言語評価(language assessment)の研究対象には含まれておらず、未連携である

- 昨今は、エンゲージメントが研究上の流行となっており、やや行動主義的に学習記録や学習行動の分析の方に関心が向いている
- 一部の民間企業、研究者や教員が、容易に GIGA スクール環境の設備整備との関連を強調する場合があるが、慎重であるべきだと私は考える

4. コストコンシャスであること

- 教育評価は、常に教員の人的コストの上で実現されている（評価コスト）
- これまでに、少なくとも規範的にいえば、評価コストは存在しないかのように扱われていた
- この状況自体が、評価を形骸化させる原因であるとの認識が広がりつつある
 - しかし、安易な教育の民営化(privatization)にも注視が必要
- 現行の指導要領完全実施にあたって、シフトコストの発生による教育業務全体への影響は常に注意
 - 皮肉なことに、すでに次期指導要領では再整理される可能性が示唆されている
 - 評価コストやそのシフトコストによって、PDCA サイクルが妨げられてならない
- 同一の証拠・資料がより低コストで得られるならば、それは十分な指導改善である
- 評価実践の共有、規格化などの努力が求められる
- 昨今は、ICT 機器を利用した学習行動の記録（学習履歴）が利用しやすい状況になっている

大学での取り組み 広島大学外国語教育研究センターの取り組み（2018～2020 年度）

- ・ およそ 1,000 人の 1 年生に対して統一教科書、統一テストの授業を提供（24 クラス）
- ・ 毎回、大学が提供する LMS とそのスマートフォンアプリを使用して、1 週間の記録の振り返りデータを取得
- ・ 各回のオンラインテスト、各 4 種類オンラインの教材のログと紐づけ
- ・ 2020 年度は、それらに応じて自動的に学生へフィードバック（LMS 画面の掲示、自動 e メール送信）

がなされる仕組みを開発

- ・同様に、学習プログラム改善への資料へ

草薙邦広・榎田一路・天野修一・鬼田崇作・阪上辰也・高橋有加・中川篤・森田光宏（2020）「広島大学
教養教育英語科目における LMS を使用した振り返り活動の実践」*Annual Review of English Language
Education in Japan*, 31, 303-318.

ワークショップ（15:30 - 16:10）

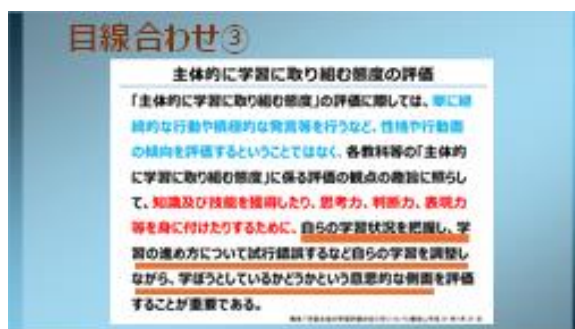
テーマ「観点別評価の導入と運用における事例報告」

講師 久山 慎也 先生（広島県立安芸府中高等学校）



観点別評価		観点別評価と評定について	
観点	評価	観点	評定
思考・判断・表現	3	知識・技能	3
知識・理解	3	思考・判断・表現	3
態度・行動	3	態度・行動	3

観点	評価	観点	評定
知識・技能	3	思考・判断・表現	3
思考・判断・表現	3	態度・行動	3
態度・行動	3	知識・技能	3



令和6年7月3日

広島県高等学校教育研究会英語部会
関係高等学校長様
英語部会員様

広島県高等学校教育研究会英語部会
部会長 神 笠 薫 子
(広島県立豊田高等学校長)

第21回広島県高校生英語スピーチ・レシテーションコンテストの開催について

皆様には益々御清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より本部会の活動に御協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて標題のコンテストを次の要領により開催しますので御案内申し上げます。できるだけ多くの生徒のみなさんが参加できるように積極的にお取り計らいをいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

実施要項

1 目的

- (1) 授業における音読活動の成果を発表する場を提供することにより、コミュニケーション能力の育成を図る。
- (2) 日常生活の身近な話題や幅広い話題について自分の考えなどを英語で発表する機会を提供することにより、コミュニケーション能力の育成を図る。

2 主催 広島県高等学校教育研究会英語部会

3 参加資格

(1) スピーチ部門

広島県の国公立高等学校および高等専門学校(1～3学年)などの学校に在学する生徒。
外国籍の生徒も参加できる。ただし、留学生は参加できない。

(2) レシテーション部門

- ① 広島県の国公立高等学校および高等専門学校(1～3学年)などの学校に在学する生徒。
英語を母語としない高校生で、大会当日までの過去3年間に海外在住期間が連続半年以内であること。
- ② 昨年のレシテーション部門で最優秀賞を獲得した生徒は今年度の同部門の参加はできない。

(3) スピーチ部門・レシテーション部門 共通

広島県高等学校教育研究会英語部会の会員が勤務している学校に在籍する生徒であること。(未加入の場合は審査当日までに会員登録と会費の納入を完了してください。完了していない場合は審査除外となります。)

4 規定

(1) スピーチ部門

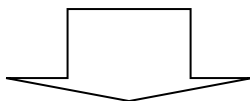
- ① 主題「私の主張」に基づきタイトルは自由とする。
- ② 制限時間は4分30秒以上5分30秒以内とする。

(2) レシテーション部門

- ① 題材は生徒の該当学年の教科書（教材も含めて）を暗唱する。
 - ア．高校1年生の部
英語コミュニケーションⅠの教科書を原則に選定すること。
なお、検定教科書であれば使用教科書以外からの選定も可。
 - イ．高校2・3年生の部
英語コミュニケーションⅡまたは英語コミュニケーションⅢの教科書を原則に選定すること。
なお、検定教科書であれば使用教科書以外からの選定も可。
- ② 制限時間は3分以内とする。
但し、制限時間内であれば使用する教材を編集しても構わない。

5 応募期限 令和6年8月23日（金）必着

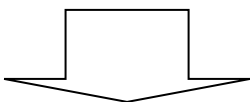
6 応募方法 ①参加申し込み : 令和6年7月26日（金）までにメールで申し込む
メールには応募票を添付して下さい。



送付先アドレス

s-hisayamak975592@hiroshima-c.ed.jp
広島県立安芸府中高等学校内
英語部会事務局 久山 慎也

②8月1日～5日を目安に事務局から参加校の担当者メールアドレスに音声データの
提出方法について通知が届く。



③音声データ(CD)の提出 : 令和6年8月23日（金）までに
○CD 郵送の場合 ➡ 安芸府中高校へ郵送する（郵送する旨を、事務局までメールにてお知らせください。）
○音声データの場合 ➡ 通知に示された Google ドライブへアップロードする

7 応募上の留意点

(1) 英文原稿の様式について

A 4 用紙縦、中央にタイトル、タイトル下の右側に部門名・学校名・学年・氏名・年齢および性別を全て記入し、さらにローマ字で氏名を書きそえること。

(例)	(タ	イ	ト	ル)
				スピーチの部
				〇〇立△△高等学校
				1 年・英語太郎・16 歳・男
				EIGO, Taro

(2) 録音について（音源）

録音は最初に学年・氏名・タイトルを読んでから原稿に入る。なお計時はタイトル後の最初の語から開始する。

【Google ドライブに提出する場合】

英語部会事務局 Google ドライブの「第 21 回スピーチ・レシテーションコンテスト録音提出」フォルダにそれぞれスピーチ部門、レシテーション部門高校 1 年生の部、レシテーション部門高校 2、3 年生の部に分けて提出する。なお、ファイル名は部門名・学校名・学年及び氏名を明記する。注意：明記されていない場合は、審査の対象外となります。

【CD で郵送する場合】

音声データは CD で提出する場合、各学校で、スピーチ部門、レシテーション部門高校 1 年生の部、レシテーション部門高校 2、3 年生の部ごとに 1 枚とする。

① 参加者ごとにトラックを分ける。

② CD は順番がわかるように明記する。（チャプターを明記）

ファイル名は部門名・学校名・学年及び氏名を明記する。

注意：明記されていない場合は、審査の対象外となります。

(3) 応募数について

スピーチ部門、レシテーション部門 1 年生の部、レシテーション部門 2・3 年生の部ごとに、それぞれ 1 校 5 名までとする。

(4) 応募された CD は返却しない。

(5) 本選で最優秀賞・優秀賞を獲得したスピーチ部門英文原稿は、英語部会会誌に掲載される。

8 予選・本選について

(1) 予選

1 期日 令和 6 年 8 月 30 日（金）13:30～16:30

2 会場 広島県立安芸府中高等学校

〒 735-0004 広島県安芸郡府中町山田 5 丁目 1-1

TEL 082-282-5311 FAX 082-282-5306

3 選考 各校からの音声データ及び英文原稿をもとに選考委員が行う。

4 審査基準

(1) スピーチ部門

社会問題を提起し、積極的な意見の主張であることを基本に、発音や抑揚を総合的に判断する。

- ・本選決定について

原稿と音源により 10 名の本選の出場者を選出する。

(2) レシテーション部門

発音や抑揚、デリバリーを中心に総合的に判断する。

- ・本選決定について

原稿と音源により 1 年生の部と 2・3 年生の部からそれぞれ 10 名の本選出場者を選出する。

但し、本選に出場できるのは、スピーチ部門、レシテーション部門 1 年生の部、レシテーション部門 2・3 年生の部ごとに、1 校 2 名までとする。

5 通知 予選審査結果と正式な本選案内は 9 月 4 日（水）前後に学校に通知する。

(2) 本選

1 期日 令和 6 年 9 月 14 日（土）

2 会場 広島市南区民文化センター スタジオ

〒 732-0816 広島県広島市南区比治山本町 16 番 27 号

TEL 082-251-4120 FAX 082-256-8811

3 日程（予定）

<レシテーション部門>

受付 10:00 ～ 10:30

開会行事 10:30 ～ 10:45

1 年生の部発表 10:50 ～ 11:40

2・3 年生の部発表 11:50 ～ 12:40

昼食 12:40 ～ 13:25

<スピーチ部門>

発表 13:30 ～ 14:50

審査 15:00 ～ 15:40

審査結果発表・表彰 15:45 ～ 16:00

閉会行事 16:00 ～ 16:15

9 表彰

○スピーチ部門

最優秀賞（1 名） 優秀賞（1 名） 優良賞（2 名）

○レシテーション部門（1 年生の部、2・3 年生の部、それぞれに）

最優秀賞（1 名） 優秀賞（1 名） 優良賞（2 名）

○学校優良賞（参加校の中から優れた作品を出品した学校）

10 中国大会について

スピーチ部門の上位 2 名は中国地区大会に出場する権利を得る。ただし、2 名の内少なくとも 1 名は、次の（1）～（3）のいずれにも該当しない者とする。

- （1）満 5 歳の誕生日以後に、通算 1 年以上または継続して 6 ヶ月以上、英語圏（英語を第一言語、公用語、または公用語に準ずる言語として使用する国、地域）に居住した者。 ※英語圏詳細については別途、全英連ホームページに掲載される。

- (2) 日本国内、海外を問わず、6ヶ月以上、英語以外の教科に関し、実態として英語による教育を行っている学校（アメリカン・スクール、インターナショナル・スクール、または授業科目の半分以上を英語で教育を行っている学校を含む）に在籍し、その教育を受けたことのある者。
- (3) 満5歳の誕生日以後に、保護者または同居親族に、英語を母語とする者、もしくは英語圏出身の者がいる場合。

大会名：第17回中国地区高等学校英語スピーチコンテスト兼第17回全国高等学校英語スピーチコンテスト中国ブロック予選

日 時：令和6年11月23日（土）

会 場：青翔開智中学校・高等学校 ※会場変更の可能性あり。

〒680-8066 鳥取県鳥取市国府町新通り3丁目301番地2

TEL 0857-30-5541 / FAX 0857-30-5542

(問い合わせ先・応募先)

〒735-0004

広島県安芸郡府中町山田5丁目1-1

広島県立安芸府中高等学校 内

英語部会事務局 第21回広島県高校生スピーチ・レシテーションコンテスト 係

担当 久山 慎也

アドレス s-hisayamak975592@hiroshima-c.ed.jp

TEL 082-282-5311 FAX 082-282-5306

THE 21st ANNUAL ENGLISH SPEECH & RECITATION CONTEST for high school students in Hiroshima

RECITATION FOR THE 1st YEAR STUDENTS

No.	NAME	SCHOOL	YEAR	TITLE OF SPEECH
1	藤井 玲奈	広島県立尾道北高等学校	1	Our Feline Friends
	FUJII, Rena			
2	ポパ 瑛真	広島県立高陽高等学校	1	A Journey to Peace
	Popa, Ema			
3	大畑 菜桜	広島県立安芸府中高等学校	1	The Jar of Life
	OHATA, Nao			
4	田村 朱夏	広島県立庄原格致高等学校	1	Dear World : Bana's War
	TAMURA, Ayaka			
5	名桑 千尋	呉市立呉高等学校	1	Bailey the Facility Dog
	NAGUWA, Chihiro			
6	久保 伊澄	広島県立広島高等学校	1	Bye Bye Plastics
	KUBO, Isumi			
7	大下 琴美	広島市立沼田高等学校	1	A Wheelchair Traveler
	OSHITA, Kotomi			
8	安部 和	広島大学附属高等学校	1	Christian the Lion
	ABE, Nodoka			
9	山本 佳歩	ノートルダム清心高等学校	1	The ABC's of Courage
	YAMAMOTO, Kaho			
10	濱井 雅藍	広島県立安芸府中高等学校	1	The Jar of Life
	HAMAI, Mia			

RECITATION FOR THE 2nd & 3rd YEAR STUDENTS

No.	NAME	SCHOOL	YEAR	TITLE OF SPEECH
1	南郷 京香	広島大学附属福山高等学校	2	Stay Hungry, Stay Foolish
	NANGO, Kyoka			
2	古谷 実優	広島県立広高等学校	2	Tokyo's Seven-minute Miracle
	FURUTANI, Miyu			
3	山崎 詩	広島県立尾道東高等学校	2	Connecting the Dots
	YAMASAKI, Uta			
4	二宮 果穂	福山暁の星女子高等学校	2	Approaches to Food Waste
	NINOMIYA, Kaho			
5	永岡 将基	広島県立音戸高等学校	2	Special Makeup in Kabuki
	NAGAOKA, Syoki			
6	平川 航平	広島県立音戸高等学校	3	Witnesses of War
	HIRAKAWA, Kohei			
7	神谷 美咲	広島大学附属高等学校	2	The True Story of the Bear behind Winnie-the-Pooh
	Kamiya Misaki			
8	今田 えみり	広島県立世羅高等学校	3	The Story of My Life
	IMADA, Emiri			

SPEECH

No.	NAME	SCHOOL	YEAR	TITLE OF SPEECH
1	スベディ ブミカラ	福山暁の星女子高等学校	2	Escaping from my Lonely Island
	Sbedi Bhumikala			
2	石井 寧々	AICJ高等学校	1	Journey to a True Understanding of Peace
	ISHII, Nene			
3	アンティロ ハナ レカ	広島県立豊田高等学校	1	LISTEN FIRST AND SMILE
	ANTERO, Hanna Recca			
4	ダノ プリンセス	広島県立音戸高等学校	2	Beyond Agony
	DANO, Princess			
5	吉村 優月喜	広島県立尾道東高等学校	1	A Person's Personality
	YOSHIMURA, Yuzuki			
6	村上 園佳	広島大学附属福山高等学校	2	Illusion of Diversity Issues
	MURAKAMI, Sonoka			
7	石井 眞桜	広島大学附属福山高等学校	2	Standing by Someone Else
	ISHII, Mao			
8	佐藤 千夏	広島県立尾道東高等学校	1	My School Uniform
	SATO, Chinatsu			
9	熊谷 まりあ	広島県立音戸高等学校	1	My Own Place
	DEMICHELI KUMAGAI MARIA CLARA			
10	後藤 央乃	広島県立広島高等学校	1	The Existence of Children
	GOTOH, Hisano			

お知らせ

●第17回中国地区高等学校英語スピーチコンテスト兼第17回全国高等学校英語スピーチコンテスト

中国ブロック予選

日 時: 令和6年11月23日(土) 13:00~16:00

会 場: 鳥取県立鳥取西高等学校 音楽ホール
〒680-0011 鳥取市東町2丁目112番地

●第17回全国高等学校英語スピーチコンテスト

日 時: 令和7年2月8日(土)、9日(日)

会 場: 国立オリンピック記念青少年総合センター
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1

●第16回広島県高校生英語ディベート大会兼全国大会予選会

Resolved: That the Japanese government should abolish all nuclear power plants in Japan.

日本政府は、原子力発電所を全て廃止すべきである。是か非か。

日 時: 令和6年10月27日(日)

会 場: 広島県立安芸府中高等学校

第 21 回広島県高校生英語スピーチ・レシテーションコンテスト

1 本選実施日 令和 6 年 9 月 14 日（土）

2 発表者 広島県内の高校生 28 名

（コンテストに応募した 20 校 68 名から一次審査により選出）

3 会 場 広島市南区民文化センター スタジオ

4 審査員 三熊 祥文 広島工業大学 教授

小林 峰子 広島県教育委員会高校教育指導課 指導主事

Cerena Gonzalez 広島県立賀茂高等学校 外国語指導助手

5 審査委員長講評

All right, hello. I was very much impressed with all of your performances. Well, in this room size, I wouldn't need a microphone. But since it has a microphone, I've decided to use it. Okay. So once again, I was very much impressed with all the performances today, both in recitation and speech categories. I would like to give you some comments, and mine concerns some technicalities, so it made me kind of complicated. So lend me your ears for a couple of minutes. First, I was pretty much impressed with all of your oral performances, like you had very beautiful flow of the messages, which is a package of what you want to say and what you pretended you wanted to say in terms of recitation, that is, that's not your message, but you may believe that that was your message, and it worked a lot. And so we all enjoyed your performances very much. And like I said, you had a beautiful flow. You practice well, and you made yourself sound like you were really talking to the listeners, which was a very impressive part of this afternoon and morning, that is, we also like the way you got yourself engaged in this particular event. I mean, I believe that this will lead to successful performances in your classrooms. For example, if you're as good as you proved to be in your performances, maybe when you get back to your classrooms and you take a textbook and you open it, you start reading it orally, then with what you have done will come back to you, and it will help you move yourself through hard work of learning English as a foreign language, and so your oral performances made us believe that you are just on the right track in terms of learning English as a foreign language. If there's one point that I would like to point out would be, well, this is what is called enunciation. I think that you have a series of models that you can learn from, when you access YouTube or whatever materials that you can put your fingers on. First thing that comes to your mind is to mimic the model and try to make yourself sound like the model, which is good, but it would help you a lot if you know a bit more of pronunciation technicalities, if you know the truth about what makes your pronunciation sound intelligible and understandable. There are some theories that you would have to learn, and you might want to ask your teachers about how you should pronounce each word and each sentence, and if you have mastered that part, then you can gradually speed up and you can make it. Closer to the model

before getting the knowledge and mastery of pronunciation. If you are so hasty in modeling after the mob, modeling after the model in terms of speed that might cause some problems in understandability or clarity, should I say so when you are in the process of practice, have someone listen to you without a note or without a text in hand and make that person listen to you. And if that person doesn't catch what you're saying, then let him or her say that. Point that out. That's one of the greatest ways to improve your pronunciation.

Let's move on to the content. All right, in speech contests, normally, you are expected to give what people call persuasive speeches. I don't know when this policy started, but it's an unwritten policy. Wherever you go, if you participate in a speech contest, you are expected to deliver a persuasive type of speech. Do you know what it means to persuade? Persuade means to change the ideas and actions of the listeners. Okay, what was it that you tried to change today? A speech contest is not a narrative contest. Many of you have this material of your personal experience as something that you can use in preparing for your speech, but sometimes people take too much time telling personal stories. Maybe 70, 80% of your speech is constituted by telling your personal experiences. But stop and think who is the main focus of speech activity? Contrary to popular belief, it's not the speaker. The main focus is the listeners. Okay? So first today, there was practically none of the speakers who stated, this is the problem that I wanted to see solved. The clear statement of the problem wasn't heard in the speeches. That's what you have to do, because in persuasive speeches, clear statement of the problem is necessary. You know what? You know why? Because people do not change unless there is a problem, you know what? So you have to state the problem in your speech. This is the problem. And there are two ways to involve the listeners into your speech. One, by saying that, hey, you are causing the problem. That's why you have to listen to me. You have to change. This is one way to involve the listeners. Two, you are the sufferers like myself, so I want you to join me, to raise our voice, let's change our attitudes and say something to someone who is causing us trouble. Those are the two ways that you can involve the listeners into your speech. If you keep telling your personal stories, it's very difficult to do that. The last thing I want you to do is to tell the story. 90% tell your personal experience and the last 10% is you should do this, you should do that. This is quite an imbalance, right? So please keep this in mind when you give a persuasive speech, you have to make the audience aware of the problem that exists in our society. Okay, so with these things in mind, I want you to keep working with your speeches, because speech activity is something that you can get yourselves ahead in living this competitive society. And not only that, your English will incredibly improve if you put yourself into this great activity. So keep doing this and keep thinking that way, that is one way that you can put yourself in this whole process of improving yourself in terms of becoming a great orator or communicator. Once again, I like to say that we all enjoyed your speeches. We knew that you have great stories, try to learn to make the most of those stories so that you can involve as many people as possible into your speeches. Thank you.

6 大会結果

レシテーション1年の部

	NAME	SCHOOL	TITLE
最優秀賞	濱井 雅藍	広島県立安芸府中高等学校	The Jar of Life
優秀賞	山本 佳歩	ノートルダム清心中・高等学校	The ABC's of Courage
優良賞	安部 和	広島大学附属高等学校	Christian the Lion
優良賞	ポパ 瑛真	広島県立高陽高等学校	A Journey to Peace

レシテーション2・3年の部

	NAME	SCHOOL	TITLE
最優秀賞	今田 えみり	広島県立世羅高等学校	The Story of My Life
優秀賞	山崎 詩	広島県立尾道東高等学校	Connecting the Dots
優良賞	南郷 京香	広島大学附属福山高等学校	Stay Hungry, Stay Foolish
優良賞	二宮 果穂	福山暁の星女子高等学校	Approaches to Food Waste

スピーチの部

	NAME	SCHOOL	TITLE
最優秀賞	吉村 優月喜	広島県立尾道東高等学校	A Person's Personality
優秀賞	石井 寧々	AICJ高等学校	Journey to a True Understanding of Peace
優良賞	村上 園佳	広島大学附属福山高等学校	Illusion of Diversity Issues
優良賞	佐藤 千夏	広島県立尾道東高等学校	My School Uniform

学校優良賞

広島県立尾道東高等学校

令和6年7月3日

広島県高等学校教育研究会英語部会
関係高等学校長様

広島県高等学校教育研究会英語部会
部会長 神 笠 薫 子
(広島県立豊田高等学校長)

第61回広島県高等学校英作文コンテストの開催について

時下、ますます御清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より本部会の活動に対しまして御協力をいただきありがとうございます。

さて、英語部会主催の英作文コンテストを次のとおり実施いたします。できるだけ多くの生徒からの応募があるように、英語科御担当の先生方の御協力・御配慮をいただきますようお願い申し上げます。

実施要項

- 1 目的 生徒の英語学力の向上と英語による発表能力の増進を図る。
- 2 応募規定
 - ※ 応募規定に沿っていない場合は欠格とし、採点対象から除外する。
 - a. 資格 広島県の国公立高等学校および高等専門学校(1～3学年)などの学校に在学する生徒。ただし、広島県高等学校教育研究会英語部会の会員が勤務している学校に在籍する生徒であること。(未加入の場合は審査当日までに会員登録と会費の納入を完了してください。完了していない場合は審査除外となります。)
 - b. 題 1年 “The book that influenced me most”
2・3年 “What local problems should I solve in my town?”
題の変更はしないこと。
 - c. 制限語数 1年は251語以上500語以内 2・3年は301語以上600語以内
(語数オーバー・不足は失格とする。)
 - d. 用紙設定 A4判で、余白を2cm、行数は42で設定すること。本文はワードで、英文フォントは Times New Roman、日本語フォントはMS明朝、サイズは12とする。
 - e. 作品 1) 未発表のものに限る。
2) 一番上に題を明記し、本文末尾に必ず語数を記入する。(句読点は語数に入れない)
3) 本文右上に、日本語で学校名・学年・氏名・年齢・性別を明記し、さらにローマ字で氏名を書きそえること。

(例) (タ イ ト ル)
〇〇立△△高等学校
1年・英語太郎・16歳・男
EIGO, Taro
 - f. 提出方法 在學校を経由してメールで提出する。
 - g. 締切 令和6年9月20日(金)必着
 - h. 版権 主催者に帰属する。

3 審 査

- a. 基 準
- 1) 全体の構合力
 - 2) パラグラフの構合力
 - 3) 適切な文法・構文・語彙の使用
 - 4) 内容

b. 審 査

(1) 方法

予備審査：参加校で審査基準に従ってそれぞれの部門で予選を行い、それぞれ上位2作品を選んで送ってください。(予選に参加した人数をご報告ください)

本審査：英作文コンテスト実行委員会が審査し、1年の部と2・3年の部それぞれで9編を選んで入選とし、さらにその中から各4編を選んで入賞とする。

(2) 本審査日 10月4日(金)

(3) 会場 広島県立安芸府中高等学校(広島県安芸郡府中町山田5丁目1-1)

4 結果発表

応募者の在 school へ10月下旬に通知する。

入賞・入選は次のとおりである。

最優秀賞 1名 優秀賞 1名 優良賞 2名 佳作 若干名
努力賞 若干名

優良校 (優れた作品を出品した学校)

入賞・入選者は『英語部会会誌第59号』(3月)で発表し、図書カードの副賞を授与する。

5 その他

1) 作品は電子メールでの送付のみ受け付ける。

とりまとめの先生が2作品を1つのワードファイルにまとめて、添付してある作品送付票とともにメールに添付し送付する。その際、作品の順番と作品送付票記載の順番が同じになるようにすること。メールの件名及びファイル名は、R6 英作文(学校名)とすること。

(例) R6 英作文(安芸府中)

* 県立学校以外で参加される場合は要項や申込書のデジタルデータを送りますので、担当の先生はメールであらかじめお知らせください。

2) 送付先アドレス n-tokikawak873366@hiroshima-c.ed.jp

広島県立安芸府中高等学校内

英語部会事務局 時川 直子

3) 応募作品の返却はしない。

(問い合わせ先)

広島県立安芸府中高等学校英語部会事務局

〒735-0004

広島県安芸郡府中町山田5丁目1-1

広島県立安芸府中高等学校 内

担当 久山 慎也

アドレス s-hisayamak975592@hiroshima-c.ed.jp

TEL 082-282-5311 FAX 082-282-5306

令和6年11月1日

英作文作品応募校

校長様

英語部会員様

広島県高等学校教育研究会英語部会
部会長 神 笠 薫 子
(広島県立豊田高等学校長)

第61回広島県高等学校英作文コンテスト審査結果について（御報告）

時下、皆様におかれましてはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

平素より本部会の活動・運営に御理解御協力を賜り心より厚く御礼申し上げます。

さて、この度の第61回広島県高等学校英作文コンテストに御応募いただき、心より感謝申し上げます。本年度は県内20校から984編の出品があり、いずれも日々の学習の成果が表れた優秀な作品でした。10月4日（金）に審査を行った結果、入賞者は次のとおりです。

1年生の部

賞	英語表記	氏名	学校名
最優秀賞	First Prize	金田 紗英	ノートルダム清心高等学校
優秀賞	Second Prize	岸本 ゆめ	広島大学附属福山高等学校
優良賞	Third Prize	下田 梨央	ノートルダム清心高等学校
優良賞	Third Prize	茶木 秀太	広島大学附属福山高等学校
佳作	Prize for Fine Work	柏原 杏香里	広島県立尾道東高等学校
佳作	Prize for Fine Work	大森 結愛	広島県立安芸府中高等学校
努力賞	Prize for Effort	荒木 香帆	福山暁の星女子高等学校
努力賞	Prize for Effort	四宮 朋ノ花	広島県立尾道東高等学校

2・3年生の部

賞	英語表記	氏名	学校名
最優秀賞	First Prize	高橋 友菜	広島県立広島観音高等学校
優秀賞	Second Prize	栗村 慎吾	広島大学附属福山高等学校
優良賞	Third Prize	井上 陽	広島県立尾道北高等学校
優良賞	Third Prize	新谷 迅獅朗	広島県立尾道東高等学校
佳作	Prize for Fine Work	大井 藍里	広島県立廿日市高等学校
佳作	Prize for Fine Work	横山 京佳	ノートルダム清心高等学校
努力賞	Prize for Effort	松本 咲来	広島県立安古市高等学校
努力賞	Prize for Effort	原 彩姫	広島県立尾道北高等学校

*同一の賞内では応募順に表記しています。

優良校 広島大学附属福山高等学校

令和6年8月29日

各 高 等 学 校 長 様
各 特 別 支 援 学 校 長 様
英 語 部 会 員 様

広島県高等学校教育研究会英語部会
部 会 長 神 笠 薫 子
(広島県立豊田高等学校長)

第16回広島県高校生英語ディベート大会兼全国大会予選会の開催について（御案内）

残暑の候 皆様には益々御清栄のこととお慶び申し上げます。平素から本部会の活動に御理解と御支援をいただき心より感謝申し上げます。

さて、標記の会を次の要領により開催いたします。校務等で御多忙中とは存じますが多数の御参加をいただきますようお願い申し上げます。

- 1 期 日 令和6年10月27日（日）
- 2 会 場 広島県立安芸府中高等学校
〒735-0004 安芸郡府中町山田5丁目1-1
TEL (082)282-5311 FAX (082)282-5306
- 3 日 程 ※日程は参加チームの数によって変更の可能性があります
8:40 － 9:00 受付 （ジャッジ打ち合わせ8:40～）
9:00 － 9:15 開会式
9:25 － 10:25 第1試合
10:35 － 11:35 第2試合
11:45 － 12:45 第3試合
12:45 － 13:30 昼食
13:30 － 14:30 第4試合
14:40 － 15:40 第5試合（順位決定戦）
15:40 － 16:25 審議
16:25 － 16:55 表彰式・閉会式
- 4 参加申し込み期限 令和6年9月24日（火）必着
- 5 参加費 各チーム 5,000円（当日会場でお支払いください。）
- 6 参加申し込み方法 学校単位で別紙参加申込用紙に必要事項を御入力の上、
次の（問い合わせ先）メールアドレスに期日までに申し込んでください。

（問い合わせ先） 広島県立安芸府中高等学校内
英語部会事務局 久山 慎也

メールアドレス：s-hisayamak975592@hiroshima-c.ed.jp

メール及びファイルの件名は、R6ディベート（学校名）としてください。

（例）R6ディベート（安芸府中）

7 その他

- (1) 参加校の先生にはジャッジに加わっていただきます。
- (2) 英語部会の会員がいない学校で、生徒が参加される場合は教員が事前に参加され、会費納入をお願いします。

補足資料 HEnDA のホームページより

Resolved: That the Japanese government should abolish all nuclear power plants in Japan.

日本政府は、原子力発電所を全て廃止すべきである。是か非か。

全国大会の期日： 2024 年 12 月 21 日(土)、 22 日(日)

Hiroshima English Debate Competition for High School Students

令和 6 年 10 月 27 日 (日)

広島県立安芸府中高等学校

1. 論題

Resolution

Resolved: That the Japanese government should abolish all nuclear power plants in Japan.

日本政府は、原子力発電所を全て廃止すべきである。是か非か。

2. 日程 Schedule

8:40	—	9:00	Reception 受付 (Meeting for Judges ジャッジ打ち合わせ 8:40 ~)
9:00	—	9:15	Opening Ceremony 開会式
9:25	—	10:25	First Game 第 1 試合 (予選①)
10:35	—	11:35	Second Game 第 2 試合 (予選②)
11:45	—	12:45	Third Game 第 3 試合 (予選③)
12:45	—	13:30	Lunch Break 昼食
13:30	—	14:30	Fourth Game 第 4 試合 (予選④)
14:40	—	15:40	Final Game, 第 5 試合 (決勝戦)
15:40	—	16:25	Deliberation 審議
16:25	—	16:55	Celebration and Closing Ceremony 表彰式・閉会式

3. 審査員 Members of the Judging Panel

是澤 克哉 (広島修道大学) — Chairperson of the Panel 審査委員長

KORESAWA, Katsuya (Hiroshima Shudo University)

柏原 奨平 (広島市立舟入高等学校)

KASHIHARA, Shohei (Hiroshima Municipal Funairi Senior High School)

サウザー アシュリー (武田高等学校)

SOUTHER, Ashley (Takeda Senior High School)

マーフィー パトリック (広島県立尾道東高等学校)

MURPHY, Patrick (Hiroshima Prefectural Onomichi Higashi Senior High School)

ライアン イーマ (広島県立広島高等学校)

RYAN, Eimear (Hiroshima Prefectural Hiroshima Senior High School)

ケビン キャンベル (英数学館高等学校)

KEVIN, Campbell (Eisugakkan Senior School)

スミス フローレンス (広島女学院高等学校)

SMITH, Florence (Hiroshima Jyogakuin Senior High School)

4. 試合形式 Debate Format

Affirmative Constructive Speech	肯定側立論	(4分)
----- Preparation Time -----	準備時間	(1分)
Questions from the Negative	否定側質疑	(2分)
Negative Constructive Speech	否定側立論	(4分)
----- Preparation Time -----	準備時間	(1分)
Questions from the Affirmative	肯定側質疑	(2分)
----- Preparation Time -----	準備時間	(2分)
Negative Attack	否定側アタック	(3分)
Questions from the Affirmative	肯定側質疑	(2分)
Affirmative Attack	肯定側アタック	(3分)
Questions from the Negative	否定側質疑	(2分)
----- Preparation Time -----	準備時間	(2分)
Affirmative Defense	肯定側ディフェンス	(3分)
Negative Defense	否定側ディフェンス	(3分)
----- Preparation Time -----	準備時間	(2分)
Affirmative Summary	肯定側総括	(3分)
Negative Summary	否定側総括	(3分)
	計	42分

5. 対戦表 Competition Table

第1試合(First Game)	A校(A) vs B校(N)	C校(A) vs D校(N)
	会場①：501 (A棟5階)	会場②：401 (A棟4階)
	E校(A) vs F校(N)	
	会場③：301 (A棟2階)	
第2試合(Second Game)	B校(A) vs E校(N)	D校(A) vs A校(N)
	会場①：501 (A棟5階)	会場②：401 (A棟4階)
	F校(A) vs C校(N)	
	会場③：301 (A棟3階)	
第3試合(Third Game)	C校(A) vs B校(N)	E校(A) vs D校(N)
	会場①：501 (A棟5階)	会場②：401 (A棟4階)
	A校(A) vs F校(N)	
	会場③：301 (A棟3階)	
第4試合(Fourth Game)	校(A) vs 校(N)	校(A) vs 校(N)
	会場①：501 (A棟5階)	会場②：401 (A棟4階)
	校(A) vs 校(N)	
	会場③：301 (A棟3階)	
決勝戦 (Playoff)	(A) vs (N)	
	会場④：国際ホール (A棟5階)	この対戦における肯定側・否定側は、先に直接対戦した際のものとは逆側とする。

※本選対象校のアルファベットは、当日抽選で決定します。

6. 参加校及び参加生徒（全6校・予選6チーム） Participating Schools & Students

1

学校名	広島市立舟入高等学校		
*代表者名（先生）	柏原 奨平（KASHIHARA, Shohei）		
#	氏名	ローマ字	学年
1	吾郷 万葉	AGO, Mayo	2
2	伊藤 未唯	ITO, Mii	2
3	西村 瑠莉	NISHIMURA, Ruri	2
4	額田 慕華	NUKATA, Honoka	2
5	依田 あおい	YORITA, Aoi	2
6	倉本 志瑛	KURAMOTO, Shie	1
7	高原 孝太	TAKAHARA, Kouta	1

2

学校名	武田高等学校		
*代表者名（先生）	サウザー アシュリー (SOUTHER, Ashley)		
#	氏名	ローマ字	学年
1	狩谷 愛波	Kariya Aina	1
2	畑 歩沙	Hata Ayusa	1
3	石田 姫菜子	Ishida Hinako	1
4	石井 みわ	Iwai Miwa	1
5	奥藤 優奈	Okufuji Yuna	1
6	サウザー ソフィア	Souther Sophia	1
7	鳥尾 征永	Torio Motohisa	1
8	内藤 ゆき奈	Naito Yukina	1
9	大東 一華	Daito Ichika	2
10	渕上 ユーカリ	Fuchigami Yukari	1
11	張 嘉怡	Cho Kai	2

3

学校名	広島県立尾道東高等学校		
*代表者名（先生）	マーフィー パトリック (MURPHY, Patrick)		
#	氏名	ローマ字	学年
1	大村 雅	OMURA, Miyabi	2
2	尾田 紘星	ODA, Kosei	2
3	近藤 美咲	KONDO, Misaki	2
4	不田 美菜子	FUDA, Minako	2
5	馬淵 姫可	MABUCHI, Himeka	2
6	山口 哲平	YAMAGUCHI, Teppei	2

7	吉宗 観人	YOSHIMUNE, Kanto	2
8	小田 就之介	ODA, Shunosuke	1
9	後藤 寿英妃	GOTO, Jewel	1
10	近藤 日葵	KONDO, Hinoa	1
11	武田 りいな	TAKEDA, Rina	1
12	中津 帆波	NAKATSU, Honami	1
13	吉村 優月喜	YOSHIMURA, Yuzuki	1

4

学校名	広島県立広島高等学校		
*代表者名（先生）	ライアン イーマ (RYAN, Eimear)		
#	氏名	ローマ字	学年
1	鉄本 陽菜	TETSUMOTO, Hina	2
2	天川 華	AMAKAWA, Hana	2
3	川上 悠月	KAWAKAMI, Yuzuki	2
4	朝倉 絆月	ASAKURA, Hazuki	1
5	後藤 央乃	GOTO, Hisano	1

5

学校名	英数学館高等学校		
*代表者名（先生）	ケビン キャンベル (KEVIN, Campbell)		
#	氏名	ローマ字	学年
1	尾崎 礼菜	OSAKI, Rena	1
2	王野 朝陽	OUNO, Asahi	1
3	濱田 汐那	HAMADA, Sena	1
4	川上 拓土	KAWAKAMI, Takuto	1

6

学校名	広島女学院高等学校		
*代表者名（先生）	スミス フローレンス (SMITH, Florence)		
#	氏名	ローマ字	学年
1	出木谷 香帆	DEKITANI, Kaho	2
2	岡本 桃生	OKAMOTO, Momoki	2
3	一野坪 彩	ICHINOTSUBO, Aya	1
4	樋口史織	HIGUCHI, Shiori	1
5	小西琉心	KONISHI, Rumi	1
6	中道花歩	NAKAMICHI, Kaho	1
7	相森咲希	AIMORI, Saki	1

8	藤井 珠	FUJII, Tamaki	1
9	外 菌 綾	HOKAZONO, Aya	1
10	清信理穂子	KIYONOBU, Rihoko	1
11	松井優来	MATSUI, Yuki	1
12	遠矢 愛依	TOOYA, Ai	1

第 16 回広島県高校生英語ディベート大会

1 実 施 日 令和 6 年 10 月 27 日 (日)

2 参 加 校 広島市立舟入高等学校、広島県立尾道東高等学校、広島県立広島高等学校、
広島女学院中学高等学校、英数学館高等学校、武田高等学校

3 会 場 広島県立安芸府中高等学校

〒 735-0004 広島県安芸郡府中町山田 5 丁目 1-1 TEL 082-282-5311 FAX 082-282-5306

4 審 査 員

是澤 克哉 (広島修道大学) 審査委員長

マーフィー パトリック (広島県立尾道東高等学校)

柏原 奨平 (広島市立舟入高等学校)

イーマ ライアン (広島県立広島高等学校)

スミス フローレンス (広島女学院高等学校)

サウザー アシュリー (武田高等学校)

ケビン キャンベル (英数学館高等学校)

5 結 果

優 勝 広島市立舟入高等学校

準優勝 広島県立尾道東高等学校

(優勝校は広島県代表として 12 月 21 日 (土) ~ 22 日 (日) に開催された第 19 回全国高校生英語 ディベート大会に出場)

ベストディベーター 鳥尾 征永 (武田高等学校)

グッドディベーター 依田 あおい (広島市立舟入高等学校)

吉宗 観人 (広島県立尾道東高等学校)

天川 華 (広島県立広島高等学校)

濱田 汐那 (英数学館高等学校)

出木谷 香帆 (広島女学院高等学校)



Well, before getting into the announcement. I'd like to say general comments on this contest. First of all, every year I watched your debate, and every year I was newly surprised about debating. So all debaters have a very good potential to be the wonderful debaters in the future, and also this time, we have Eisugakkan as a newcomer. So thank you very much to join HenDA family. So keep debating for the next year as well. Don't quit, please. So everybody did a great job of doing research and cutting many pieces of evidence, but I have three points to improve more for your future debate.

The first one is delivery. I know if your research is getting hard, you have to put all your evidence into your speech time, but sometimes it does not effective. It's not effective because students tend to read the evidence without any emphasis on the key sentences, and especially when you read the evidence that the evidence is not spoken English, but written English. So it's kind of hard for judges to take notes. And also you are talking about statistics, numbers, it's very hard to catch up, so please make a stress and please slow down and highlight your key sentences. That's the first comment.

The second comment is about how to use evidence. Most of the high school debaters did a wonderful job to explain about a fact. Most of the teams depend on the facts. For example, like in this preliminary line, I watched many teams debate without or not increasing the price of electricity. That on their affirmative said, like in Germany, price will go down. However, on the negative, renewable energy costs much so both conflict and both sides talk about the fact itself. So my suggestion is, please try to find evidence with reasoning so that judges can make a difference. So don't stick to the fact itself. Fact is important. However, the fact based on the reasoning is more important. So when we use evidence, please always think about the reasoning back up in your fact, so that I understand judges will understand after abolishing the nuclear power plant, price will go increase or price will decrease. Using the reasoning then make a difference with your reasoning, not the fact itself. So the evidence originally means like a fact that shows clearly that something exists. So you don't need to back up everything. You just read the evidence you say it's a crucial in their own. So this is how to use an evidence, but in this preliminary line, I think the team I judged did a great job to extend your evidence and explain it in your defense speech and summary speech. It's kind of rare to judge high school debate, so I think that's a very good thing. So I said like an extension means not to repeat what you say in your constructive speech, but you have to add more information on your constructive speech. That's the extension of your argument in your rebuttal speeches.

All right, my third point is impact, how to make arguments matter. That's a weakness of your debate. So I understand like electricity price up is matter, but you can explain more on this impact analysis. Here is a book *Speak Out - Debate on the Public Speaking in the Middle Race* explains a lot about how to compare your impacts. I will quote, since I am a debater, "if you have trouble explaining your impact, think in terms of 'because'". So because begin with an impact claim like this one that got lost, so most of the negativity run like, after abolishing nuclear power plant, it will increase CO2 emission. So not only mention about increase CO2 emissions is bad, but also you can say like, loss of ozone layer is bad then extent it like loss of ozone layer is bad because more UV deviation will reach to the surface of the earth. And that's bad because many people will get skin cancer as a result. And that's bad because skin cancer is often fatal and incidental. Skin cancer will increase UV intensity. It increases so like this, using tons of the because you can deepen your analysis of the impact. So in the future debate, please think about how evaluate your impact in the debate.

That's all my comments, but you high school debaters did a great job. I'm really happy to judge forums. It was really exhausting, but it was really happy exhausting. So, well, that's all about it.

第 17 回中国地区高等学校英語スピーチコンテスト
兼 第 17 回全国高等学校英語スピーチコンテスト中国ブロック予選 実施要項

- 1 **趣 旨** わが国の高校生の英語による表現力を伸ばし、英語学習に対する関心を高めるとともに、国際的視野を持つ人材の育成に資する。
- 2 **主 催** 中国地区高等学校英語スピーチコンテスト鳥取県実行委員会
 (中国地区高等学校英語スピーチコンテスト実行委員会)
- 3 **後 援** 広島県教育委員会、山口県教育委員会、島根県教育委員会、鳥取県教育委員会、岡山県教育委員会、新日本海新聞社、NHK鳥取放送局 (予定)
- 4 **大会運営** 中国地区高等学校英語スピーチコンテスト鳥取県実行委員会
- 5 **日 時** 令和 6 年 11 月 23 日 (土) 午後 1 時～午後 4 時
- 6 **会 場** 鳥取県立鳥取西高等学校 音楽ホール
 (〒680-0011 鳥取県鳥取市東町 2 丁目 112 番地)
 電話 0857-22-8281 ファクシミリ 0857-22-7324
- 7 **大会概要**
 - ・各県大会で選ばれた代表 2 名が中国大会に臨む。
 - ・各県代表 2 名のうち少なくとも 1 名は、全国大会実施要項の「参加資格」に示された「第 1 部に参加できる者」とする。
- 8 **論 題** 自由 (未発表のオリジナル原稿に限る)
 ※ただし、県大会、ブロック大会、全国大会を通じて、スピーチの内容に大きな改変及び改編を加えてはいけない。
- 9 **制限時間** 4 分 30 秒から 5 分 30 秒
- 10 **審査基準** 内容 (Content) 50 点、英語 (English) 30 点、態度 (Delivery) 20 点 合計 100 点
 ※Questions & Answers (Interaction) は実施しない。
- 11 **審 査 員** ネイティブ・スピーカー 3 名を含む 5 名
- 12 **応募方法**
 - (1) 各県で選出された出場者については、各県高等学校英語教育研究団体が県別に次のア及びイをまとめた上で、中国大会担当者宛てに送付する。
 (中国大会担当者宛ての送付先については裏面に掲載)
 ア「応募申込書」
 参加生徒の在籍学校長が作成した応募申込書を郵送する。(要公印)
 イ「スピーチ原稿(A 4 判、縦)」
 電子メールの添付ファイルとして送付する。なお、「スピーチ原稿」には学校名・生徒氏名・論題を明記することとする。
 - (2) 「応募申込書」は、中国大会担当者が各県担当者宛てに送付した「中国地区高等学校英語スピーチコンテスト応募申込書」を使用する。
 - (3) 応募されたスピーチ原稿の著作権については、本大会主催者に帰属する。
- 13 **申込期限** 「応募申込書」及び「スピーチ原稿の電子ファイル」とも令和 6 年 11 月 5 日(火)必着。
- 14 **表 彰** 上位 3 名を決定するとともに、全員を表彰する。
- 15 **全国大会の参加者**

全国大会の要項 5 の (5) に「各ブロックは、第 1 部に 1 名以上の参加者を出すものとする。」とあることから、令和 7 年 2 月 9 日(日)に開催される全国大会に参加する者は、次の (1) 及び (2) に該当する者とする。

 - (1) 第 1 部の参加有資格者であり且つ第 1 部への参加を希望する者のうち最上位の順位の者。
 - (2) 上記 15 の (1) に該当する者以外の者のうち最上位の順位の者。
- 16 **選考結果の通知**

選考結果については、各県高等学校英語教育研究団体に通知する。
 (なお、全国大会への出場権を獲得した者に不測の事態が起こった場合は、主催者で別途協議し決定する。)

〔 附 則 〕

1 参加資格

全国大会の参加資格に準じる。参加者は学校長の推薦を必要とする。参加者については、当該学校長は推薦の際、参加資格に抵触しないことを証するものとする。

2 制限時間

- (1) 計時は、生徒の第一声から開始する。
- (2) 4分、4分30秒、5分、5分30秒の時点で時間を示す。
- (3) 4分30秒に満たない場合並びに5分30秒を超えた場合には、減点する。

3 審査

- (1) 内容・英語・話し方の観点を踏まえ、スピーチを総合的に審査する。
- (2) 得点を集計し、それを基に審査員が協議して、順位を決定する。

4 その他

- (1) 発表者はマイクを使用する。
- (2) スピーチ原稿を作成する際に ChatGPT 等の生成AIを使用したら、その箇所を明確にして、何のためにどのように使ったのかを書き添えることとする。

【中国大会担当者並びに応募申込書及びスピーチ原稿の提出先】

〈中国大会担当者〉

第17回中国地区高等学校英語スピーチコンテスト

実行委員会委員長 辻中 孝彦（鳥取県立岩美高等学校長）

実行委員会事務局長 椿 浩司（鳥取県立鳥取工業高等学校教頭）

〈応募申込書及びスピーチ原稿の提出先〉

鳥取県立鳥取工業高等学校

教頭 椿 浩司

郵 送 先 〒689-1103 鳥取県鳥取市生山111番地
鳥取県立鳥取工業高等学校

電 話 0857-51-8011

ファクシミリ 0857-51-8499

電子メール tsubaki_kg@g.torikyo.ed.jp

（※申込の場合は、件名に「中国スピコン応募」と記入すること。）

**第 17 回 中国地区高等学校英語スピーチコンテスト兼
第 17 回 全国高等学校英語スピーチコンテスト中国ブロック予選**

- 1 実施日 令和 6 年 11 月 23 日（土）
- 2 発表者 各県大会で選ばれた代表 2 名の高校生 10 名
- 3 会場 鳥取県立鳥取西高等学校 音楽ホール
〒680-0011 鳥取鳥取市東町 2 丁目 112 番地 Tel: 0857-22-7324

4 コンテストの概要報告

第 17 回中国地区高等学校英語スピーチコンテスト兼第 17 回全国高等学校英語スピーチコンテスト中国ブロック予選が、令和 6 年 11 月 23 日（土）に鳥取県立鳥取西高等学校を会場として開催されました。中国 5 県の各県大会で選ばれた代表 2 名、10 名が発表しました。出場生徒たちは、それまでの練習成果を発揮しようと懸命に頑張りました。その結果、広島県から出場した石井寧々さん（AICJ 高等学校 1 年）が優勝して全国大会への出場を果たし、吉村優月喜さん（広島県立尾道東高等学校 1 年）は優秀賞を獲得しました。参加し両名の努力と指導にあたられた先生方の情熱に敬意を表しつつ、今後の英語部会の事業がさらに活性化されることを期待しています。

（報告：広島県立安芸府中高等学校 久山 慎也）

部会員の皆様へ

高等学校教育研究会英語部会

英語教育及び研修に関するアンケート

調査の目的

このアンケートは次の目的のために実施します。英語部会研究活動の年度末自己評価のために必要な調査ですので、ぜひご協力をお願いします。

回答方法

- ・ コピーをして各回答者に配付してください。
- ・ 各校の英語科代表、または部会員代表の先生が、集計して別紙の「アンケート集計用紙」に入力し、英語部会事務局までご返信ください。

- ① 英語部会の目標(1)(2)の達成状況を調査し、よりよい研修機会を提供するための資料とする。
- (1)「学びの変革(主体的・対話的で深い学び)」の趣旨を踏まえた授業展開や教材開発を行う。
- (2)「学びの変革(主体的・対話的で深い学び)」と関わりのある内容について研究・研修を行う。
- ② 英語部会の目標(3)に基づき実施している事業の課題を明らかにし、改善を図る。
- (3) 高校生育成事業に応募する学校数・生徒数を増加させる。

- ・ メールまたは FAX にて、集計用紙に記された宛先に、12 月 25 日(水)までにご返信ください。メールの場合は、ファイル名を **アンケート集計(学校略称)** としてください。
(例) **アンケート集計(安芸府中)**

アンケート項目

【1】本年度(4月～現在、または3月までの予定)の達成目標について該当する番号を○で囲んでください。

- 1 英語部会の達成目標(1)についてお尋ねします。次の①～④のうち1つを選んでください。「学びの変革(主体的・対話的で深い学び)」の趣旨を踏まえた授業を展開した、あるいは教材を開発した。
- | | |
|-------------|--------------|
| ①大いに当てはまる | ②ある程度当てはまる |
| ③あまり当てはまらない | ④まったく当てはまらない |

- 2 英語部会の達成目標(2)についてお尋ねします。「学びの変革(主体的・対話的で深い学び)」と関わりのある内容に関して、どのような内容について研究・研修に取り組みましたか。次の①～⑤から選んでください(複数選択可)。

- ① 目標・評価について(外国語科に限らない)
(例) 評価指標(ループリック)の開発・使用について
CAN-DO 形式による学習到達目標の開発・使用について
多様な評価方法(例えばパフォーマンス評価)について
評価の観点について
- ② 教授法・指導法について(外国語科に限らない)
(例)「能動的な学び」「主体的な学び」「アクティブ・ラーニング」について
「課題発見・解決学習」「探究的な学び」「教科の枠を越えた学び」
「思考力・判断力・表現力等の育成」「言語活動の充実」について
「見方・考え方」を働かせた授業について「ディベート活動」について

別紙 1

- ③ 異文化間協働活動の推進について(外国語科に限らない)
(例) 外国人との交流・姉妹校交流(Web 会議、交流プログラム開発)について
生徒の異文化体験・海外留学について
グローバル・マインドの育成について
SDGs や WWC に関わるプログラム開発について

- ④ 特に外国語科の指導に関連する内容について
(例) 英語の4技能5領域(聞く・読む・話す(やり取り/発表)・書く)の育成について
主として英語を用いて英語の授業を行うことについて
英語教員としての英語力の向上について

⑤ その他 ()

3 英語部会の達成目標(2)についてお尋ねします。「学びの変革(主体的・対話的で深い学び)」と関わりのある内容に関して、どのような機会において研修に取り組みられましたか。次の①～⑨から選んでください(複数選択可)。

- ①校内の研究・研修 ②県教育委員会の研修会 ③他校の公開研究授業
④民間の研究団体や企業の研修会 ⑤国内・海外の大学の研修会
⑥自主研究グループの活動 ⑦教育に関する書物・雑誌購読やインターネットによる情報
⑧その他 ()
⑨「学びの変革」と関わりのある内容に関して、特に研修はしていない。

4 現在、どのような分野・テーマの研修をしたいと思われていますか(複数選択可)。
()

【2】英語部会主催の1～3の高校生育成事業に関して、次の項目(a)～(c)について、それぞれお答えください。

- 1 英語スピーチ・レシテーションコンテスト(8月30日予選→9月14日日本選)
- 2 英作文コンテスト(10月審査)
- 3 英語ディベート大会(10月27日)

- | |
|--|
| <p>(a) ①生徒を参加させた、あるいは、生徒に案内した。
②生徒を参加させなかった、あるいは案内しなかった。
③本校の誰も開催されるのを知らなかった。</p> <p>(b) ②と答えられた学校は、その理由をお書きください。</p> <p>(c) この事業に来年度貴校の生徒を参加させるために、あるいはこの事業をさらによいものにするために、何が改善されなければなりませんか(課題)。</p> |
|--|

ご協力ありがとうございました。後日、会誌で結果を報告いたします。

英語教育及び研修に関するアンケート結果

調査の目的

- ① 英語部会の目標(1)(2)の達成状況を調査し、よりよい研修機会を提供するための資料とする。
(1)「学びの変革（主体的・対話的で深い学び）」の趣旨を踏まえた授業展開や教材開発を行う。
(2)「学びの変革（主体的・対話的で深い学び）」と関わりのある内容について研究・研修を行う。

② 英語部会の目標(3)に基づき実施している事業の課題を明らかにし、改善を図る。
(3) 高校生育成事業に応募する学校数・生徒数を増加させる。

回答数 38校 97名

アンケート項目

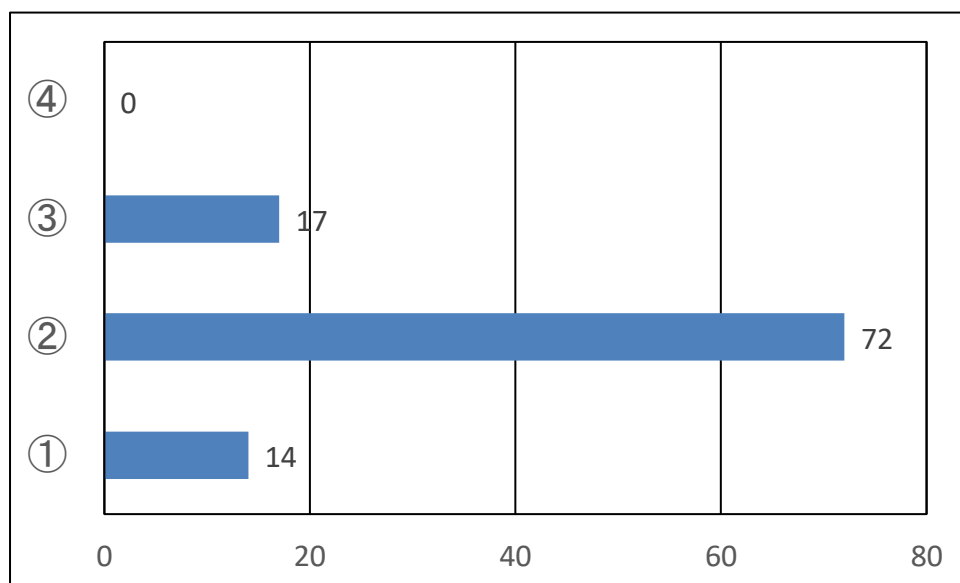
【1】本年度（4月～現在、または3月までの予定）の達成目標について該当する番号を○で囲んでください。

1 英語部会の達成目標(1)についてお尋ねします。次の①～④のうち1つを選んでください。

「学びの変革（主体的・対話的で深い学び）」の趣旨を踏まえた授業を展開した、あるいは教材を開発した。

- | | |
|-------------|--------------|
| ①大いに当てはまる | ②ある程度当てはまる |
| ③あまり当てはまらない | ④まったく当てはまらない |

集計結果



（数字は実数）

2 英語部会の達成目標(2)についてお尋ねします。「学びの変革（主体的・対話的で深い学び）」と関わりのある内容に関して、どのような内容について研究・研修に取り組みましたか。 次の①～⑤から選んでください（複数選択可）。

① 目標・評価について（外国語科に限らない）

（例）評価指標（ルーブリック）の開発・使用について
CAN-DO 形式による学習到達目標の開発・使用について
多様な評価方法（例えばパフォーマンス評価）について
評価の観点について

② 教授法・指導法について（外国語科に限らない）

（例）「能動的な学び」「主体的な学び」「アクティブ・ラーニング」について
「課題発見・解決学習」「探究的な学び」「教科の枠を越えた学び」について
「思考力・判断力・表現力等の育成」「言語活動の充実」について
「見方・考え方」を働かせた授業について「ディベート活動」について

③ 異文化間協働活動の推進について（外国語科に限らない）

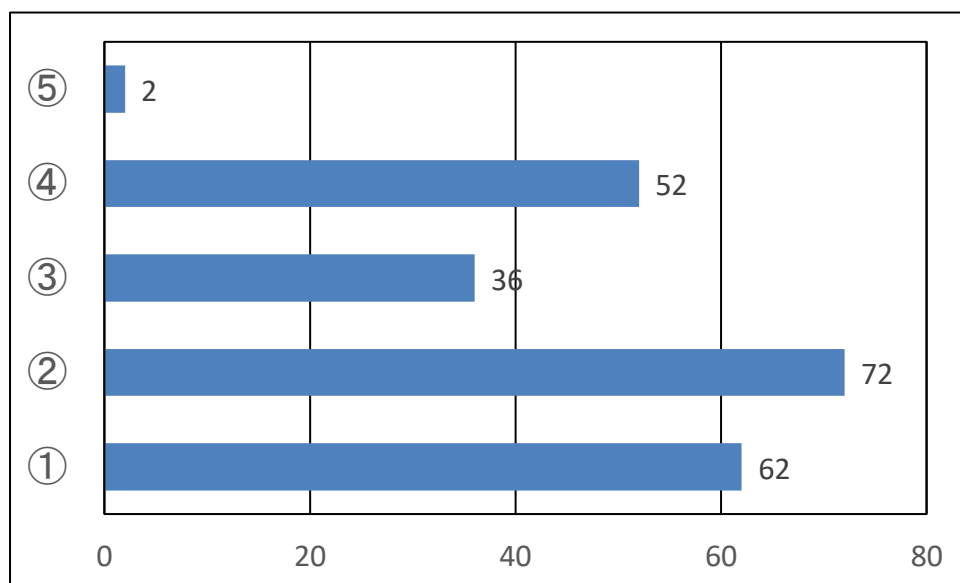
（例）外国人との交流・姉妹校交流（Web 会議、交流プログラム開発）について
生徒の異文化体験・海外留学について
グローバル・マインドの育成について
SDGs や WWC に関わるプログラム開発について

④ 特に外国語科の指導に関連する内容について

（例）英語の 4 技能 5 領域（聞く・読む・話す（やりとり/発表）・書く）の育成について
主として英語を用いて英語の授業を行うことについて
英語教員としての英語力の向上について

⑤ その他（ ）

集計結果

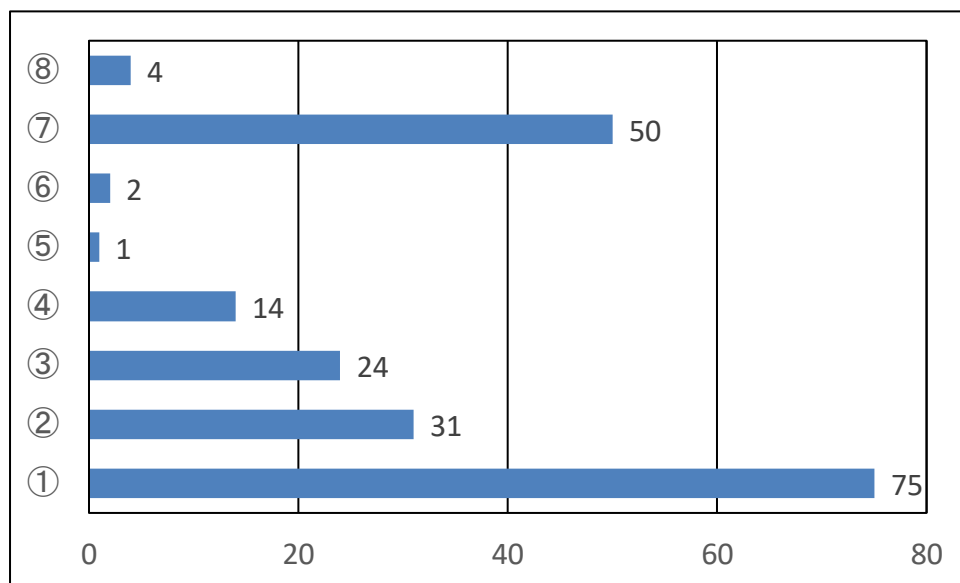


（数字は実数）

3 英語部会の達成目標(2)についてお尋ねします。「学びの変革（主体的・対話的で深い学び）」と関わりのある内容に関して、どのような機会において研修に取り組みましたか。次の①～⑨から選んでください（複数選択可）。

- ①校内の研究・研修 ②県教育委員会の研修会 ③他校の公開研究授業
 ④民間の研究団体や企業の研修会 ⑤国内・海外の大学の研修会
 ⑥自主研究グループの活動 ⑦教育に関する書物・雑誌購読やインターネットによる情報
 ⑧その他（ ）
 ⑨「学びの変革」と関わりのある内容に関して、特に研修はしていない。

集計結果



（数字は実数）

4 現在、どのような分野・テーマの研修をしたいと思われていますか。

集計結果

- ・語学力の向上。
- ・ICTを活用した授業について。
- ・教員の英語力向上について。
- ・主体的に学習する態度の評価基準や評価方法。
- ・主体的・対話的で深い学び。
- ・3年間をとおした外国語科カリキュラムのグラウンドデザイン。
- ・話すこと（やり取り）の指導と評価について。
- ・授業内での思考力・判断力・表現力の育成方法。
- ・生成AIの活用方法について。
- ・「話す」能力について
- ・STEAM型カリキュラムと連動した英語教育の在り方について。
- ・DX、STEAM、図書館教育の有機的な連携の在り方。
- ・英語科の「見方・考え方」を働かせた授業とは何か。
- ・自動採点システムの利用について。
- ・パフォーマンス課題の工夫について。

- ・効果的なグループワークについて。
- ・表現力向上のための効果的な指導法について。
- ・第2言語習得について。
- ・協働学習について。
- ・生徒の学習動機を高め、文法の理解を深める例文について。
- ・インクルーシブな視点に立った英語教育について。
- ・リスニング強化の指導法。
- ・ディベート、ディスカッションを授業内でどう扱うか。
- ・英語の授業は英語を用いて実施することについて。

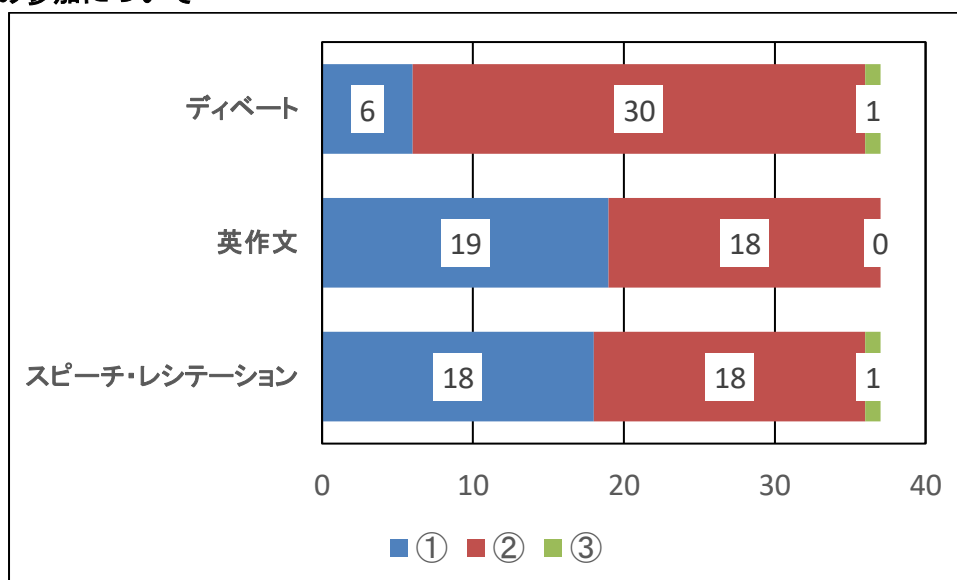
【2】英語部会主催の1～3の高校生育成事業に関して、次の項目(a)～(c)について、それぞれお答えください。

- 1 英語スピーチ・レシテーションコンテスト（9月17日）
- 2 英作文コンテスト（10月審査）
- 3 英語ディベート大会（10月29日）

- (a) ①生徒を参加させた、あるいは、生徒に案内した。
 ②生徒を参加させなかった、あるいは案内しなかった。
 ③本校の誰も開催されるのを知らなかった。
- (b) ②と答えられた学校は、その理由をお書きください。
- (c) この事業に来年度貴校の生徒を参加させるために、あるいはこの事業をさらによいものにするために、何が改善されなければなりませんか（課題）。

集計結果

(a) 生徒の参加について



(数字は実数)

(b) 生徒を参加させなかった、あるいは案内しなかった理由

[スピーチ・レシテーションコンテスト]

- ・校内体制が整っていない。
- ・課題の提出・添削・指導に追われ手が回らない。
- ・部会員の不足。
- ・現行の実施体制では、大会に向けた計画的・体系的な指導が困難であるため。
- ・ESS の案内にとどまった。
- ・生徒実態と合っていない。
- ・指導のための時間が取れない。
- ・部会員がいないため。
- ・カリキュラムの都合上、「発表」の指導が不足しているので。

[英作文コンテスト]

- ・校内体制が整っていない。
- ・課題の提出・添削・指導に追われ手が回らない。
- ・部会員の不足。
- ・現行の実施体制では、大会に向けた計画的・体系的な指導が困難であるため。
- ・ESS の案内にとどまった。
- ・生徒実態と合っていない。
- ・指導のための時間が取れない。
- ・部会員がいないため。
- ・カリキュラムの都合上、「発表」の指導が不足しているので。

[英語ディベート大会]

- ・校内体制が整っていない。
- ・課題の提出・添削・指導に追われ手が回らない。
- ・部会員の不足。
- ・校内で体系的なディベート指導を実施できていないため。
- ・1、2年でディベートを扱っていないため。
- ・該当者がいない。
- ・部会員がいないため。
- ・授業内でも取り組めていないから。
- ・カリキュラムの都合上、「発表」の指導が不足しているので。
- ・教員側に指導する余力、指導するために自身でディベートについて学習する余力がなかったため。

(c) 改善すべき課題

[スピーチ・レシテーションコンテスト大会]

- ・校内体制を整える。
- ・参加のメリットをもっと生徒に伝えるべきだった。
- ・要項が毎年7月に提示されるため、計画的にカリキュラムの中に位置付けるのが困難である。シラバスに反映できるよう、要項を前年度の1月ごろに示せないか。
- ・5分前後のスピーチを求めているが、1学期終了時点までに、5分間程度の話すこと（発表）の指導を行うことは困難である。指導要領に基づいて、一般的な指導を受けていれば参加できる課題にできないか。
- ・パフォーマンス課題等で全員に取り組みせ、授業や課題と連動させる。
- ・早めにスケジュールを把握し、計画的に動く必要がある。
- ・原稿の書式・形式を要項に明記すること。
- ・大会案内を早く示してほしい。
- ・参加することのハードルが高い、と感じている生徒が多い。
- ・英語部会会員を増やす必要がある。
- ・あるトピックについて英語でビデオを作成し、それを評価するなど、生徒が興味を持って積極的に参加しやすいものがあると良い。

[英作文コンテスト]

- ・校内体制を整える。
- ・参加のメリットをもっと生徒に伝えるべきだった。
- ・トピック（及びトピックに応じて求められる英文のテキストタイプ）が毎年異なり、また7月に提示されるため、計画的にカリキュラムの中に位置付けるのが困難である。例えば1年生は narrative、2年生は argumentative のように、テキストタイプを毎年固定できないか。また、シラバスに反映できるよう、トピックを前年度の1月ごろに示せないか。
- ・1年生に250語以上の英作文を求めているが、1学期終了時点までに、まとまりのある英文（特に、複数パラグラフから成る文章）を書く指導を行うことは困難である。指導要領に基づいて、一般的な指導を受けていれば参加できる課題にできないか。
- ・生成AIが普及した現在、誰の手が加わったかわからない英文でコンテストを行うことには限界があるのではないか。
- ・早めにスケジュールを把握し、計画的に動く必要がある。
- ・大会案内を早く示してほしい。
- ・英語部会でも話が出ましたが、AIや翻訳ソフトによる英文をどのように扱うかが難しい課題だと感じています。
- ・英語部会会員を増やす必要がある。

[英語ディベート大会]

- ・校内体制を整える。
- ・参加のメリットをもっと生徒に伝えるべきだった。
- ・英語部の活動に取り入れる。
- ・早めにスケジュールを把握し、計画的に動く必要がある。
- ・ディベートのトピックの幅を広げる。
- ・教員対象の研修会の設定。
- ・まずは日本語での思考力が必要。
- ・指導法の共有を図る機会が必要。
- ・大会案内を早く示してほしい。
- ・ディベートのルール等に精通している教員・生徒が少ない。
- ・英語部会会員を増やす必要がある。

令和 6 年度広島県高等学校英語部会
公開研究授業 各地区の実施情報

(1) 広島西地区

- ア 期日：令和 5 年 11 月 1 日(金)
イ 場所：広島県立廿日市西高等学校
ウ 内容
・教科等：外国語・論理表現Ⅱ
・授業者：広島県立廿日市西高等学校 教諭 河野 賢人

(2) 広島東地区

- ア 期日：令和 6 年 11 月 5 日(火)
イ 場所：広島県立安芸府中高等学校
ウ 内容
・教科等：外国語・英語コミュニケーションⅡ
・授業者：広島県立安芸府中高等学校 教諭 松島 浩司

- ア 期日：令和 6 年 11 月 8 日(金)
イ 場所：広島県立賀茂高等学校
ウ 内容
・教科等：外国語・論理表現Ⅱ
・授業者：広島県立賀茂高等学校 教諭 永田 大介

(3) 呉地区

- ア 期日：令和 6 年 11 月 15 日(金)
イ 場所：広島県立呉商業高等学校
ウ 内容
・教科等：外国語・英語コミュニケーションⅠ
・授業者：広島県立呉商業高等学校 教諭 品川 大哲

(4) 尾道・三原地区

- ア 期日：令和 6 年 11 月 18 日(水)
イ 場所：広島県立三原高等学校
ウ 内容
・教科等：外国語・英語コミュニケーションⅠ
・授業者：広島県立三原高等学校 教諭 高尾 和希

(5) 福山地区

- ア 期日：令和 6 年 10 月 30 日(水)
イ 場所：広島県立大門高等学校
ウ 内容
・教科等：外国語・英語コミュニケーションⅠ
・授業者：広島県立大門高等学校 教諭 和田 恒汰

A Person's Personality

広島県立尾道東高等学校
1年・吉村優月喜・15歳・女

Have you ever thought about why each animal and plant exists? In school, we learn that all animals and plants have a special relationship with each other, and that the disappearance of just one living thing can have a big impact in nature. For example, eagles depend on snakes for food, snakes eat frogs, frogs eat insects, and insects eat plants, so if certain plants disappear, eagles could also disappear. The ecosystem exists because all living things each have a special role, and they all depend on each other. This mechanism also exists in society. Society exists because everyone is different, and everyone is necessary. For example, people with different ways of thinking and different personalities study different subjects and work different jobs. This creates a diverse society where everyone, such as police officers, doctors, and artists can depend on each other. If all of these jobs are important and respected, then everyone's individual differences should be respected too, right? However, in today's society, this is not the case.

When I watch the news on TV, I often see reports of harassment based on gender, violent incidents caused by racism, and also wars based on religion. In my daily life, I sometimes hear people talking rudely about others behind their backs or even to their faces. Personally, I have had unpleasant experiences myself when people rejected my appearance, saying "That hairstyle doesn't suit you," or rejected my opinions, saying "I don't understand why you think that way." I have learned that people in this world are bullied because of their gender identity, skin color, or personality, and that sometimes people who can't bear this harassment decide to take their own life. Research shows that there is unfortunately a strong connection between bullying and suicide. This is terrible, because suicide not only steals a life, but it also steals a future doctor, a future police officer, or a future artist from our society.

We need to create a society where people can express themselves freely without fear of harassment.

If we promote this society, individuality and differences will be valued and respected. Then, incidents of bullying and other violent conflicts will disappear from this world. As a result, people can openly express their unique differences, and we can have a more diverse society.

Of course, it may be difficult to always respect the differences in other people. The environment in which someone grows up can create many big differences. As there are many people in this world who grew up in cultures that you have never experienced, there may be people who have completely different values and ways of thinking from your own. There are many cultural differences, such as punctuality, awareness of the environment, educational values, and food preferences. These differences can sometimes be difficult to respect equally. However, what is most important is the attitude of trying to understand.

Therefore, let's take action. First, we should go out into the world and communicate with many different people so that we can learn about and understand their differences. Then, through this effort, we will learn to respect and value diversity in our society. When we look at plants and animals, they all have different colors, sizes, shapes, and lifestyles, but they each have an important role in nature. It's the same with humans. A person's personality, skin color, gender, age, or culture may be different from our own, yet that person is necessary in our society and should be respected.

Journey to a true understanding of peace

スピーチの部

広島市 AICJ 高等学校

1年・石井寧々・16歳・女

“Hey Nene, did you survive Hiroshima? Your skin looks burnt.” I froze as one of my classmates laughed. Although my parents are both Japanese, my skin was never “white enough” to fit the Japanese beauty standard. I was viewed as being different and was often the target of bullying. Growing up in Hiroshima was never easy. From elementary school we would learn about the horrors of the Atomic Bomb and were shown descriptive drawings of burnt innocent people drawn in black, dying. It was then, my classmates decided to refer to me as one of the burnt people in the drawing. This was one of the worst days of my life. My heart was shattered into a million pieces. Even if I tried to put the pieces back together my own thoughts would get in the way. This experience came after our 'Peace Education' lessons. But I asked myself, where was my inner 'Peace'?

As I moved to the U.S. in the 5th grade, one of my American friends noticed that I always covered my skin with long-sleeved shirts and pants even if the weather was very hot. I explained my experience in Hiroshima and they assured me not to worry. I finally felt free. Like I belonged somewhere. I felt like a butterfly coming out of their chrysalis. Moving to the U.S. made me realize I didn't have to fit into the standards and opinions of others. I learned that American culture was not about hiding your true self. It was to embrace who you are and be accepting of each other. I started to feel my 'inner peace' growing inside me and that my journey to understanding more about what peace actually meant had really begun.

Prejudice based on skin color is one of the leading causes of discrimination and conflict in this world. Despite this, Japanese education hasn't been able to tackle the issue of discrimination. This is a concern as the number of immigrants is increasing in Japan, conflicts have emerged as they are discriminated against because of their skin color. Starting from educating the young generation about how to understand, respect, and appreciate the differences between people can help prevent the misguided perspectives a person has on skin colors.

This prejudice is heavily surrounded by the concept of people having different perspectives. A prime example of this would be war. War is often caused by people having different perspectives on a specific issue. When I lived in the U.S., during history class, I was taught about World War II. Since I was raised in Hiroshima, I thought I knew everything, such as how the Americans attacked Hiroshima and took the lives of many innocents. But, this was only my perspective on the Americans. The teacher taught us about the devastating sneak attack on Pearl Harbor. In that classroom, I was the only Japanese student. From this realization, though I knew it was not my fault, I felt guilty. Although my classmates were looking at the teacher, it seemed as if they were looking at me. And it felt like I was back in elementary school, where my classmate made fun of my skin color and everyone was looking at me. It was then the importance of understanding different perspectives struck me. From this valuable lesson, I learned that to build peace, we need to understand other's values and perspectives, even if they are different.

Embracing these different perspectives is key to a true understanding of peace. Japan needs to reevaluate the peace education conducted and tackle the issues of prejudice that are the causes of discrimination and conflict in this world today in order to move beyond just thinking about WW2. This can help Japan to take on its journey to establish a new fundamental peace that can spread worldwide. To stop the conflicts and discrimination, we also need to remember to have empathy.

Without empathy there will be no compassion or kindness, but with empathy there will be serenity and unity with others. I want to use my voice to reach world peace and make this world a better place. But we all have a voice. We all are meant to use it for the greater good. If all our voices are lost or kept quiet we lose the ability to share perspectives. So I invite all of you to join me on this journey. When we unite and work towards a common goal, peace will not just be a dream but a reality

The book that influenced me most

私立ノートルダム清心高等学校
1 年 金田 紗英

When I read the first sentences, I could not help but cry. The main character was so much like me. What moved me? It was the loneliness she felt. Risa Wataya, the author of “I Want to Kick You in the Back”, described her loneliness in powerfully beautiful words. “The lonely can ring. It rings high and clear sounds and tightens my heart, so I tear off a part of the print so this sound doesn’t reach the ears of people around me.” Doing this is a small act and she does it because of her desire to hide her sadness. These sentences reflect the embarrassment and the tension we feel when alone. This writer described my frustration in clear detail.

When I was thirteen, I disliked my school. As soon as I entered the school, I found it difficult to make friends with my classmates. I always felt a bit lonely. I was uncomfortable as I felt everyone was judging me when dividing into groups in class. The break between classes I felt was so long as I sat in silence, while others talked. I felt like everyone was watching me. Every day I wondered if I would be able to have a good time at school. It was during this time that this book changed my life.

The main character of this book, Hatsu, was a bit different from her classmates. She had a unique way of thinking and speaking. She felt lonely, but she hid it. She always behaved like other people. I was the same. Hatsu and I probably did not want to show the differences between our classmates and ourselves. We thought it was more important just to go along with other people than be different and maybe be hated. We were scared that we would feel awkward when we were silent, and that we would not be asked for our opinion due to our different ideas. This part of our character made us unhappy.

I was somehow aware of this, but I did not want to believe it. This book allowed me to be my true self which I had not been able to accept before. Then I felt relaxed and happy. The book showed me that I was not alone.

After reading this book, I became able to accept myself. If I am lonely or different from other people, it is OK, because they are them, I am me. If some say the best color is blue, you are able to say the best color is pink. There are so many people and so many ideas. We should respect ourselves more than anyone else and accept who we are. I did that and felt much happier. I found I was able to make friends. Now I have lots of friends, but I have not changed who I am.

This book has shown me how to be happy by myself. After accepting who you are, you can then love other people.

“What local problems should I solve in my town?”

広島県立広島観音高等学校
2年 高橋 友菜

Hiroshima Peace Memorial Park is globally recognized as a symbol of peace, commemorating the tragic events of August 6, 1945, and conveying the devastating consequences of war to the world. Despite its profound significance, the park faces several challenges that threaten its preservation and its message to future generations. To safeguard this sacred site and keep the flame of peace alive for the future, it is essential to address these issues with thoughtful and sustainable solutions.

One major challenge the park faces is the physical deterioration of its structures and monuments. Constant exposure to natural elements and the increasing number of visitors each year have caused wear and damage to the park's facilities. For example, the A-bombed Aogiri tree, a symbol of resilience, has suffered from reduced sunlight due to the newly opened G7 Hiroshima Summit Memorial Hall, leading to lighter-colored leaves and smaller leaf size. To address this issue, it is necessary to prioritize regular maintenance and restoration of the surviving trees, as well as to ensure that new developments do not compromise the historical integrity of the park's monuments.

Another significant issue is the need to enhance the educational experience for visitors, especially the younger generation. I once came across a video where a young foreign individual made disparaging comments about the atomic bomb, which was deeply distressing to me. The ongoing challenge is that the profound significance of Hiroshima's history seems to be fading. To counteract this, it is crucial to implement interactive and immersive educational programs that engage visitors on a deeper level. For instance, virtual reality experiences, guided tours by survivors or their descendants, and multilingual resources could help convey the park's importance and message more effectively. I have taken part in volunteer of guide in Peace Memorial Park in English before. I was able to learn deeply about peace myself and give a little guide to foreign tourists about there. I thought what I can do now through these experiences is to take part in peace-related events and volunteer work to spread about peace to people around the world.

Furthermore, the park faces the challenge of balancing the needs of the local community with its role as an international symbol. While the influx of tourists benefits the local economy, it can also lead to overcrowding and strain on local resources, as seen in incidents like the burning of paper cranes in 2003. To maintain the park's role as a space for peace and reflection, it is important to manage visitor flow and implement measures to achieve balance. Proposed solutions include enhancing security within the park, introducing timed entry tickets during peak seasons, and developing alternative tourist routes that highlight other significant historical sites in Hiroshima.

In conclusion, Hiroshima Peace Memorial Park not only serves as a reminder of the past but also as a call to action for the future. By addressing physical deterioration, strengthening educational efforts, and managing the balance between local and international needs, we can ensure that the park remains a powerful symbol of peace for future generations. Preserving this legacy is not only the responsibility of the citizens of Hiroshima but also of all who seek a more peaceful world.

令和6年度広島県高等学校教育研究会英語部会概要

本部役員並びに事務局

役職名	氏名	公職名
会長	神笠 薫子	豊田高等学校校長
副会長	植田 圭	尾道東高等学校長
副会長	宮本 昌明	松永高等学校長
副会長	矢野 由美子	熊野高等学校校長
監事	岡寄 友一	音戸高等学校教頭
監事	龍王 理香	庄原格致高等学校教頭
監事	竹内 由美子	宮島工業高等学校（定）教頭
理事	有末 徹朗	広高等学校教諭
理事	越智 示帆	竹原高等学校教諭
理事	福好 功伸	油木高等学校教諭
理事	慶楽 友樹	日彰館高等学校教諭
理事	佐々木 裕誠	河内高等学校教諭
理事	野村 卓矢	千代田高等学校教諭
庶務	久山 慎也	安芸府中高等学校教諭
庶務	魚崎 美沙	安芸府中高等学校教諭
庶務	時川 直子	安芸府中高等学校教諭
庶務	日高 健司	安芸府中高等学校教諭
庶務	松島 浩司	安芸府中高等学校教諭
庶務	早川 顕	安芸府中高等学校教諭
庶務	頼近 真理	安芸府中高等学校教諭
庶務	松本 叔子	安芸府中高等学校教諭
庶務	廣本 樹哉	安芸府中高等学校教諭
会計	折田 実保	安芸府中高等学校教諭

【事務局】

広島県立安芸府中高等学校

TEL(082)282-5311 FAX(082)282-5306

担当：久山 慎也・折田 実保・松島 浩司

広島県高等学校教育研究会英語部会会則

第1条【名称と所在地】 本会は、広島県高等学校教育研究会英語部会と称する。また、この会の所在地を会長の勤務する高等学校に置く。

第2条【目的】 本会は、英語教育に関し、広島県教育委員会の指導のもとに、学習指導 要領等の法令に則って自主的・創造的な教育研究活動を行い、本県高等学校、特別支援学校及び高等専門学校教育関係者の資質向上と学校教育の振興を図ることを目的とする。

第3条【事業】 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- 1 研究会、講習会、講演会等の開催
- 2 英語教育に関する研究、調査等
- 3 会員並びに生徒の研究および発表の助長
- 4 研究紀要の発信
- 5 他の語学教育研究団体との連絡協力
- 6 その他、本会の目的を達成するために必要と認められる事項

第4条【会員】 本会は、本会の趣旨に賛同する県内高等学校、特別支援学校及び高等専門学校の教職員で構成し、支部を広島西、広島東、呉、尾三、福山、三次の各地区に置く。

第5条【入会及び退会】 ① 会員は除名される若しくは退会の申し出がない限り継続するものとする。

② 新規に会員になろうとする者は、役員会において別に定めるところにより本会会長に申し出なければならない。

③ 退会する者は、役員会において別に定めるところにより本会会長に申し出なければならない。

第6条【役員】 本会には次の役員を置く。

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 会長 | 1 名 |
| (2) 副会長 | 若干名 |
| (3) 理事 | 若干名 |
| (4) 庶務・会計 | 若干名 |
| (5) 監事 | 2 名 |

1 会長及び副会長は、校長の職にある者でなければならない。

2 役員の選任は、次のとおりとする。

(1) 会長、副会長、監事は役員会において選任する。

(2) 理事は各地区支部より選任する。

(3) 庶務、会計は会長が委嘱する。

第7条【職務】 役員の職務は次のとおりとする。

1 会長は、本会を代表し、会務を統括する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたとき、その職務を代理し又は代行する。

3 理事は会務を分担処理する。

4 庶務、会計は本会の庶務及び会計の事務を行う。

5 監事は、会計を監査する。

第8条【任期】 任期については次の通り定める。

- 1 役員の任期は1年とする。ただし、補欠又は増員により選任された役員の任期は、前任者又は現任者の残任期間とする。
- 2 役員は、再任されることができる。
- 3 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまではその職務を行わなければならない。

第9条【役員会】 会長は、本会の運営等について協議が必要な場合は、第6条に定める役員会を招集する。

第10条【総会】 本会は毎年1回、総会を開き、重要な事項につき協議する。総会は役員会をもって代行することができる。

第11条【会計】 本会の運営経費は、会費ならびに寄付金、その他の収入で充当し、その額は役員会において別に定める。

第12条【会計期間】 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌3月31日に終わる。

第13条【事務局】 本会にかかる庶務を処理するため、役員会において別に定める学校に事務局を置く。

第14条【除名】 会員が、教育研究会及び本会の目的に反する行為を行った場合、役員会の4分の3以上の賛成により除名することができる。

第15条【会則改正】 この会則の改正は役員会の4分の3以上の賛成及び広島県高等学校教育研究会の承認を得なければならない。

(その他)

第16条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に必要な事項は、会長が定める。

第17条 この会則は、平成12年7月1日より施行する。

附 則 この会則は平成19年7月1日より施行する。

附 則 この会則は平成21年7月1日より施行する。

附 則 この会則は平成23年4月1日より施行する。

附 則 この会則は平成24年11月1日より施行する。

附 則 この会則は令和2年7月1日より施行する。